

4 介護保険サービス未利用者調査

(1) 基本属性

記入者 (F 2)

記入者は、「あて名ご本人(57.0%)」が半数以上、「ご家族(33.8%)」は3割である(図表4-1-1)。

図表4-1-1 記入者(全体)



性別 (F 3)

性別は、「女性(57.8%)」が5割台、「男性(39.6%)」が4割で、女性の方が多い(図表4-1-2)。

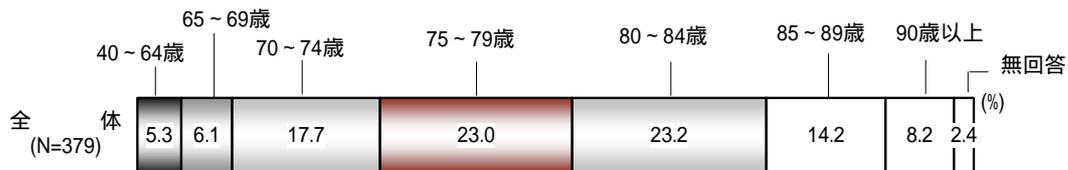
図表4-1-2 性別(全体)



年齢 (F 4)

年齢は、「80～84歳(23.2%)」と「75～79歳(23.0%)」がそれぞれ2割以上で、75歳以上の後期高齢者が半数以上を占めている(図表4-1-3)。

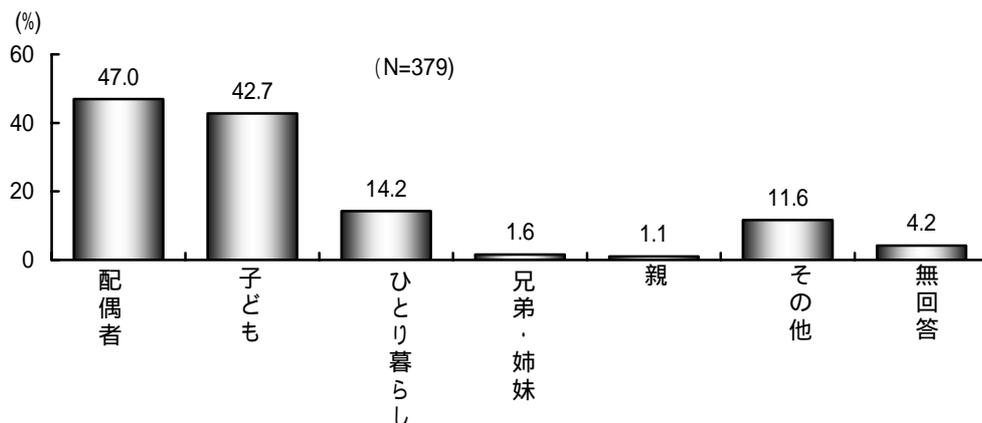
図表4-1-3 年齢(全体)



家族構成 (F 5)

家族構成については、「配偶者(47.0%)」、「子ども(42.7%)」がそれぞれ4割を超えている。「ひとり暮らし(14.2%)」は1割強である(図表4-1-4)。

図表4-1-4 家族構成(全体/複数回答)



同居者の年齢（F 5 - 1）

同居者の年齢については、「64歳以下の同居者がいる（43.0%）」が4割である。「同居者全員が65歳以上（31.4%）」という高齢者のみ世帯は3割を超えている（図表4 - 1 - 5）。

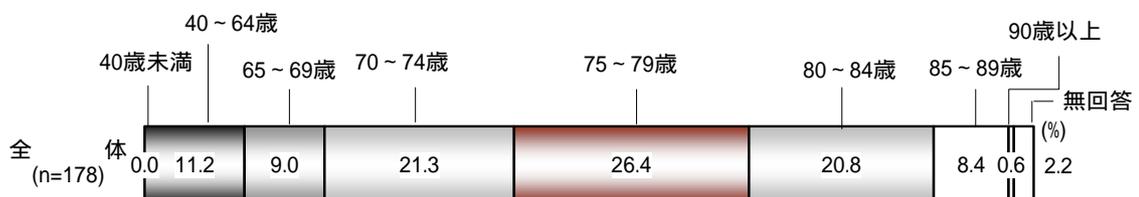
図表4 - 1 - 5 同居者の年齢
 <ひとり暮らし以外と回答した人>（全体）



配偶者の年齢（F 5 - 2）

配偶者の年齢については、「75～79歳（26.4%）」が最も多く、次いで「70～74歳（21.3%）」、「80～84歳（20.8%）」と続いている（図表4 - 1 - 6）。

図表4 - 1 - 6 配偶者の年齢
 <配偶者と回答した人>（全体）



居住地域 (F 6)

居住地域については、「第三地区 (20.3%)」が最も多く 2 割である。その他の地区は 1 割台であり大きな違いはない (図表 4 - 1 - 7)。

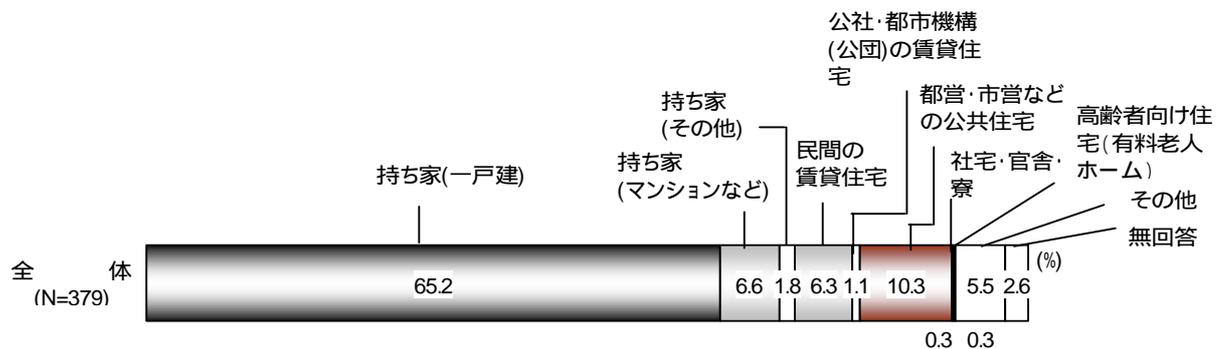
図表 4 - 1 - 7 居住地域 (全体)



住宅 (F 7)

住宅については、「持ち家 (一戸建て) (65.2%)」が最も多く 6 割を超えている。次いで「都営・市営などの公共住宅 (10.3%)」が 1 割である (図表 4 - 1 - 8)。

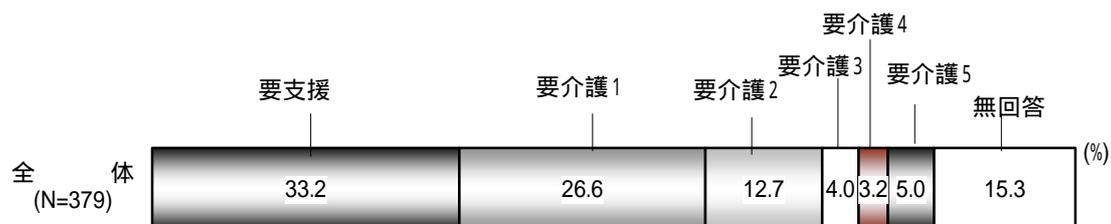
図表 4 - 1 - 8 住宅 (全体)



要介護度（F 8）

要介護度については、「要支援（33.2%）」が最も多く、「要介護1（26.6%）」とあわせると59.8%にのぼる（図表4 - 1 - 9）。

図表4 - 1 - 9 要介護度（全体）



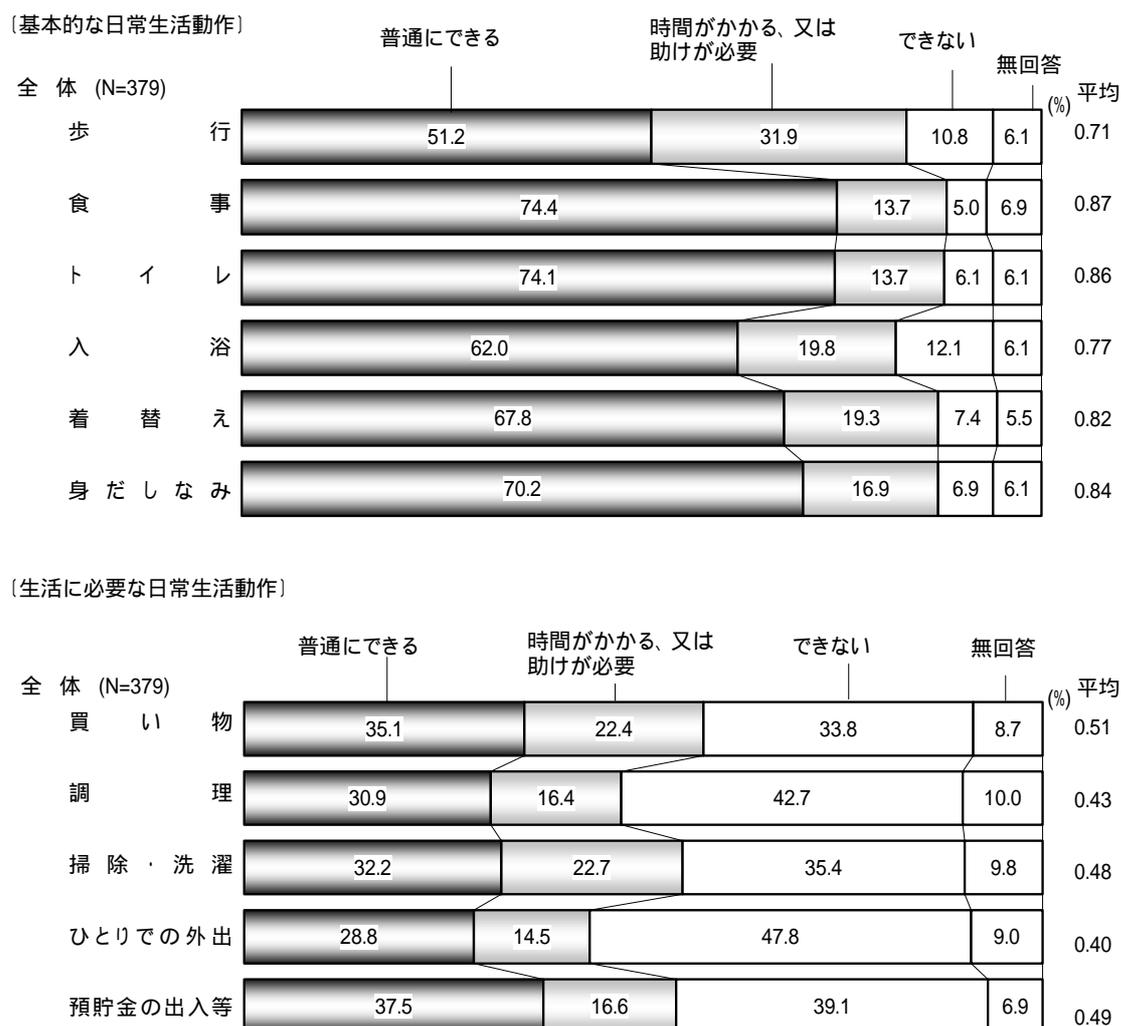
(2) 健康状態・健康づくり

日常生活動作(問1)

日常生活動作については、『歩行』は5割、『食事』、『トイレ』、『身だしなみ』は7割以上、『入浴』、『着替え』は6割台が「普通にできる」と回答している。『歩行』については「時間がかかる、又は助けが必要(31.9%)」が3割を超えている。

生活に必要な日常生活動作については、『買い物』、『預貯金の出入等』は3割台、その他の項目も約3割が「普通にできる」と回答している。『調理』、『ひとりでの外出』については「できない」が4割を超えている。それぞれの項目の回答を「普通にできる(1点)」、「時間がかかる、又は助けが必要(0.5点)」、「できない(0点)」で代表させた平均値(加重平均値)でみると、『食事』は最も高く0.87、『ひとりでの外出』は最も低く0.40である(図表4-2-1)。

図表4-2-1 日常生活動作(全体)

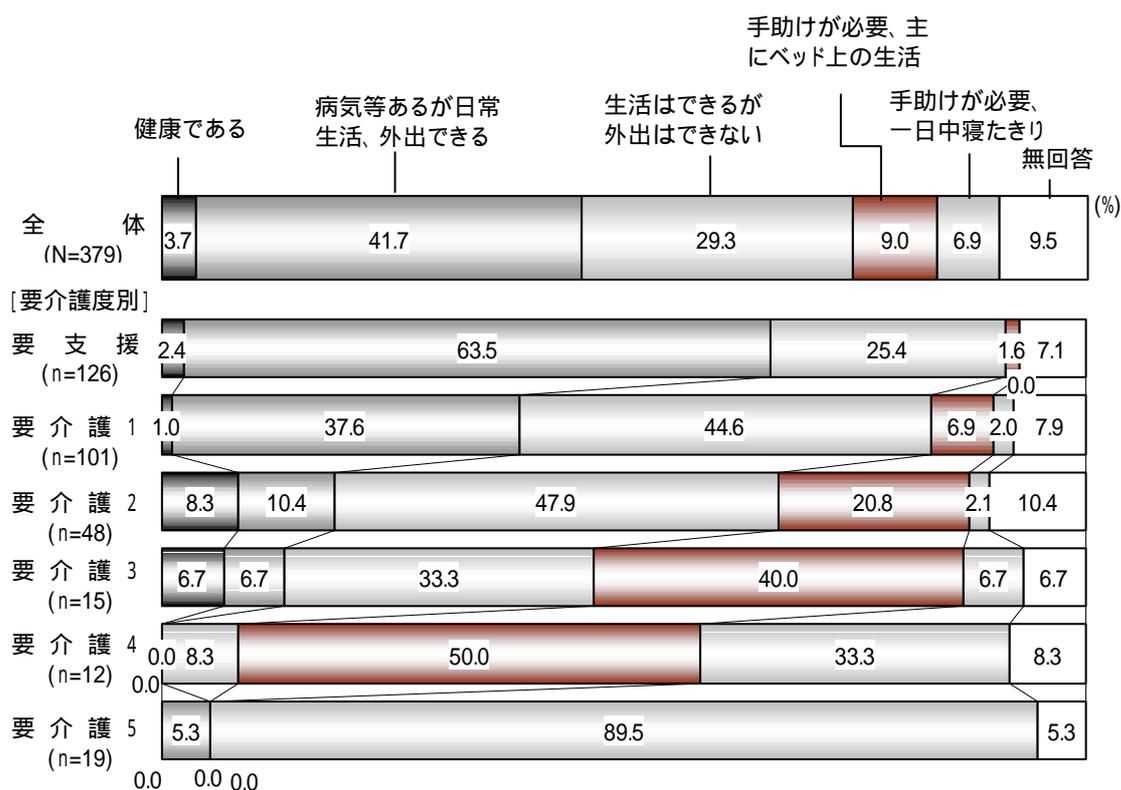


健康状態（問2）

健康状態については、「病気等あるが日常生活、外出できる（41.7%）」が最も多く、「生活はできるが外出はできない（29.3%）」が続いている。

要介護度別にみると、重くなるにつれ、「手助けが必要、一日中寝たきり」の割合が高くなる（図表4-2-2）。

図表4-2-2 健康状態（全体、要介護度別）

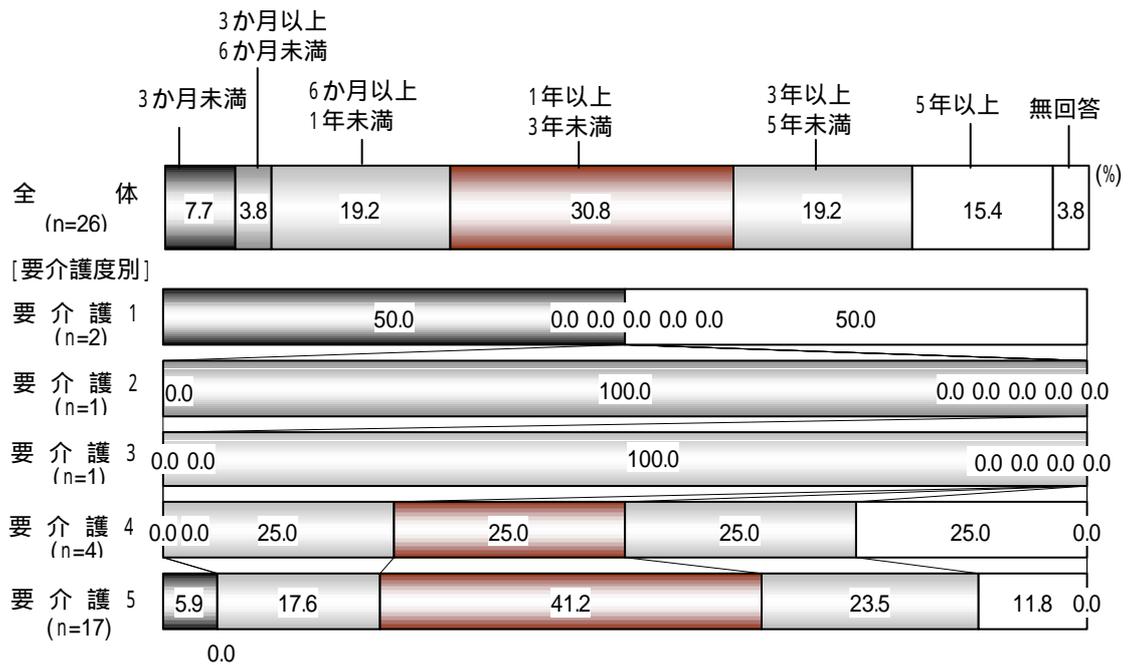


寝たきりの期間（問2 - 1）

寝たきりの期間については、「1年以上3年未満（30.8%）」が最も多く、「3年以上5年未満（19.2%）」、「6ヶ月以上1年未満（19.2%）」がそれぞれ2割弱である。「5年以上」も15.4%となっている（図表4 - 2 - 3）。

図表4 - 2 - 3 寝たきりの期間

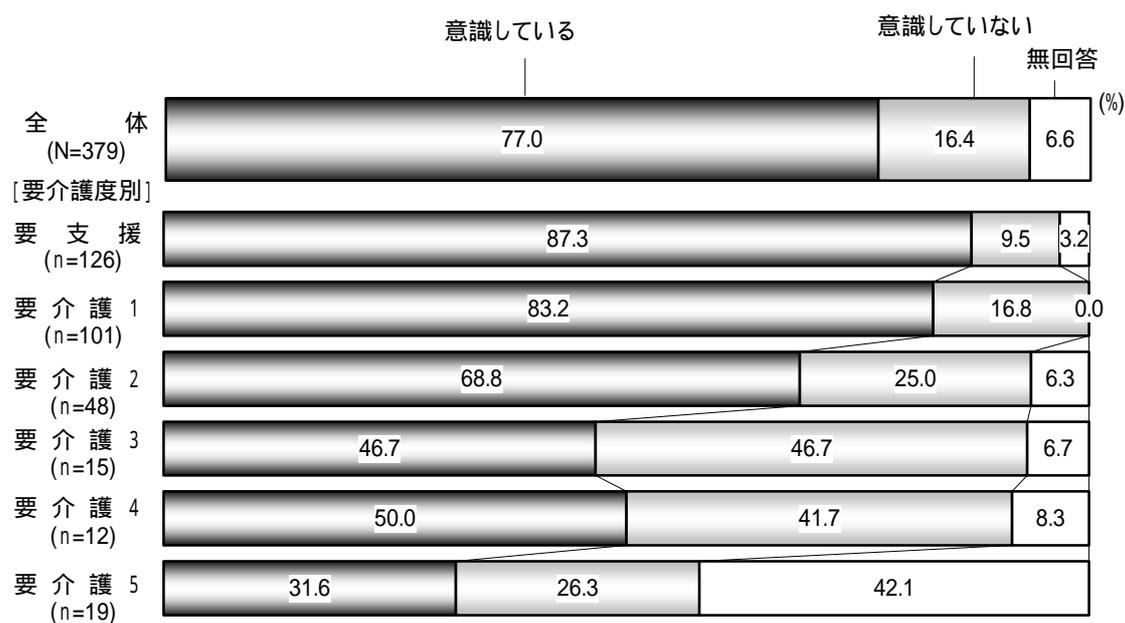
<一日中寝たきりで過ごしていると回答した人>（全体、要介護度別）



健康づくりへの意識（問3）

健康づくりへの意識については、8割近くが「意識している(77.0%)」と回答している。要介護度別にみると、要支援、要介護1は8～9割近い人が健康づくりについて意識している(図表4-2-4)。

図表4-2-4 健康づくりへの意識（全体、要介護度別）



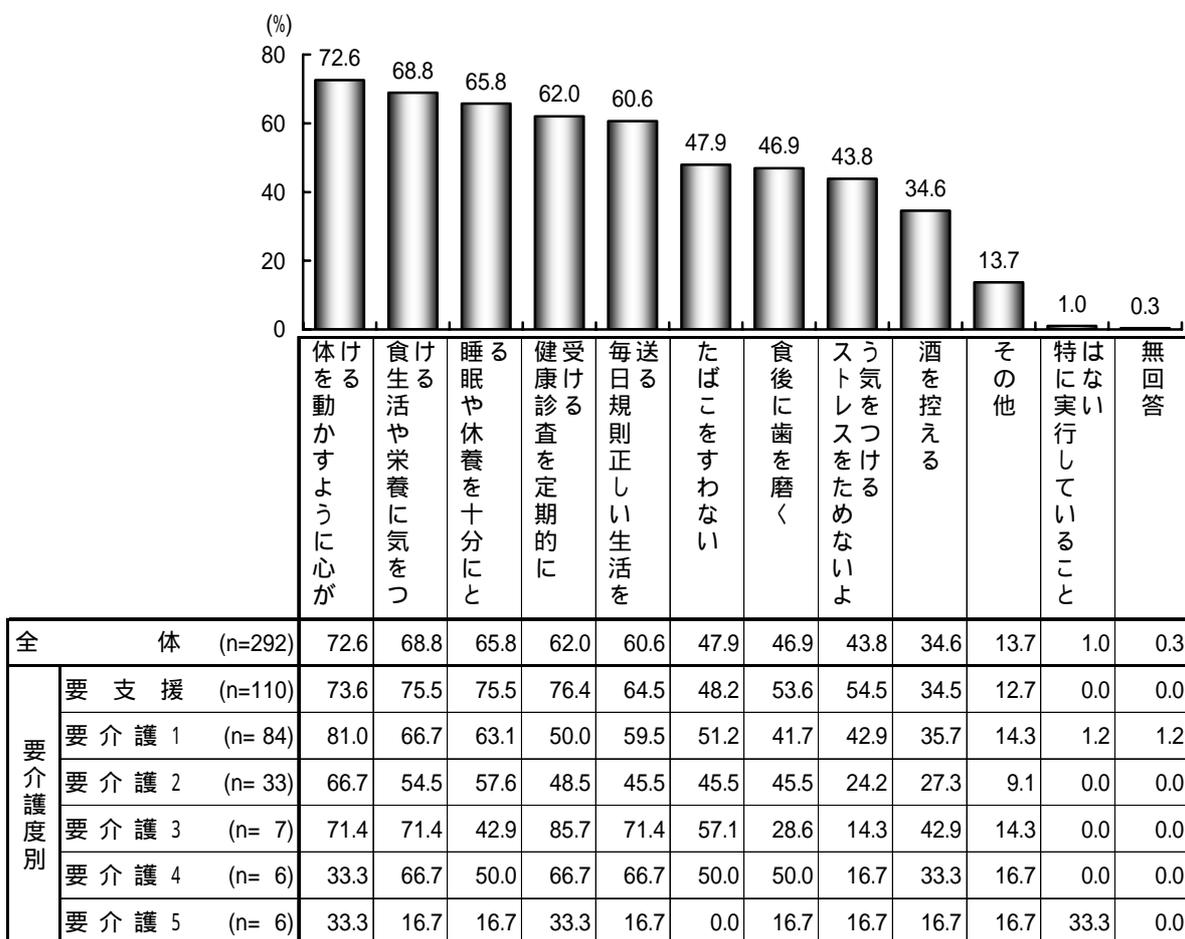
実行していること（問3 - 1）

健康づくりについて意識している人に、実行していることをたずねたところ、「体を動かすように心がける（72.6%）」が最も多い。

要介護度別にみると、要介護1、要介護2以外は「健康診査を定期的に受ける」が最も多い。要介護4では「食生活や栄養に気をつける（66.7%）」や「毎日規則正しい生活を送る（66.7%）」も多い（図表4 - 2 - 5）

図表4 - 2 - 5 実行していること

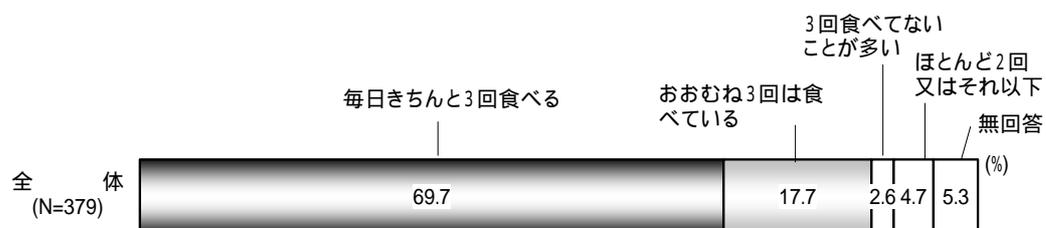
<意識していると回答した人>（全体、要介護度別 / 複数回答）



食事（問4）

食事については、「毎日きちんと3回食べる(69.7%)」が約7割である(図表4-2-6)。

図表4-2-6 食事（全体/複数回答）



咀嚼の程度（問5）

咀嚼の程度については、「よく噛める(33.0%)」、「ほぼ噛める(38.3%)」をあわせると、7割が噛めると回答している(図表4-2-7)。

図表4-2-7 咀嚼の程度（全体）

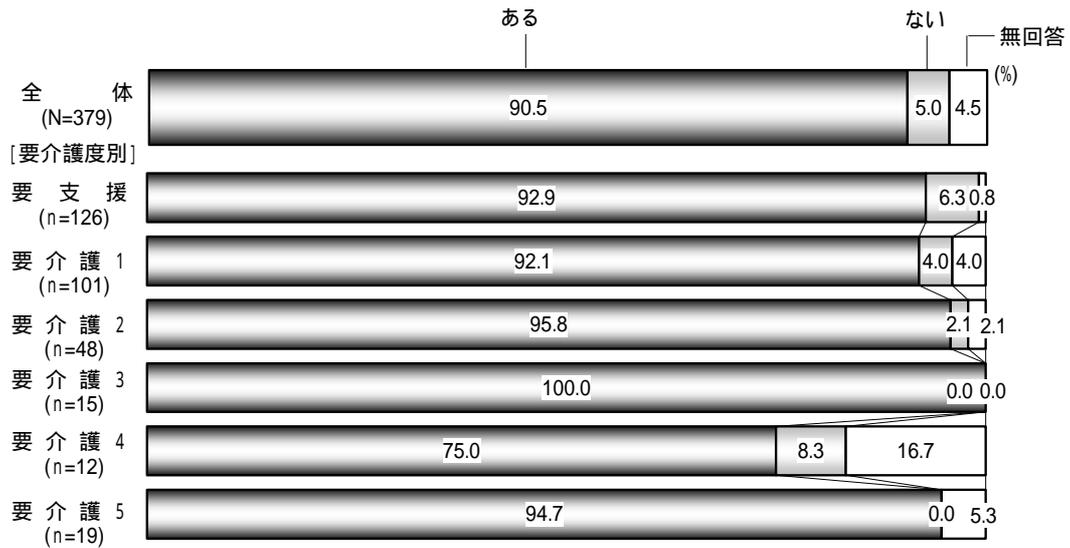


医療機関の受診状況（問6、問6-1-ア）

現在治療中の病気については、「ある（90.5%）」が9割で、定期的に受診している医療機関は平均2.1か所である。

要介護度別にみると、要介護4は「ある（75.0%）」が7割を超えているが、それ以外は9割を超えている（図表4-2-8）。

図表4-2-8 現在治療中の病気（全体、要介護度別）



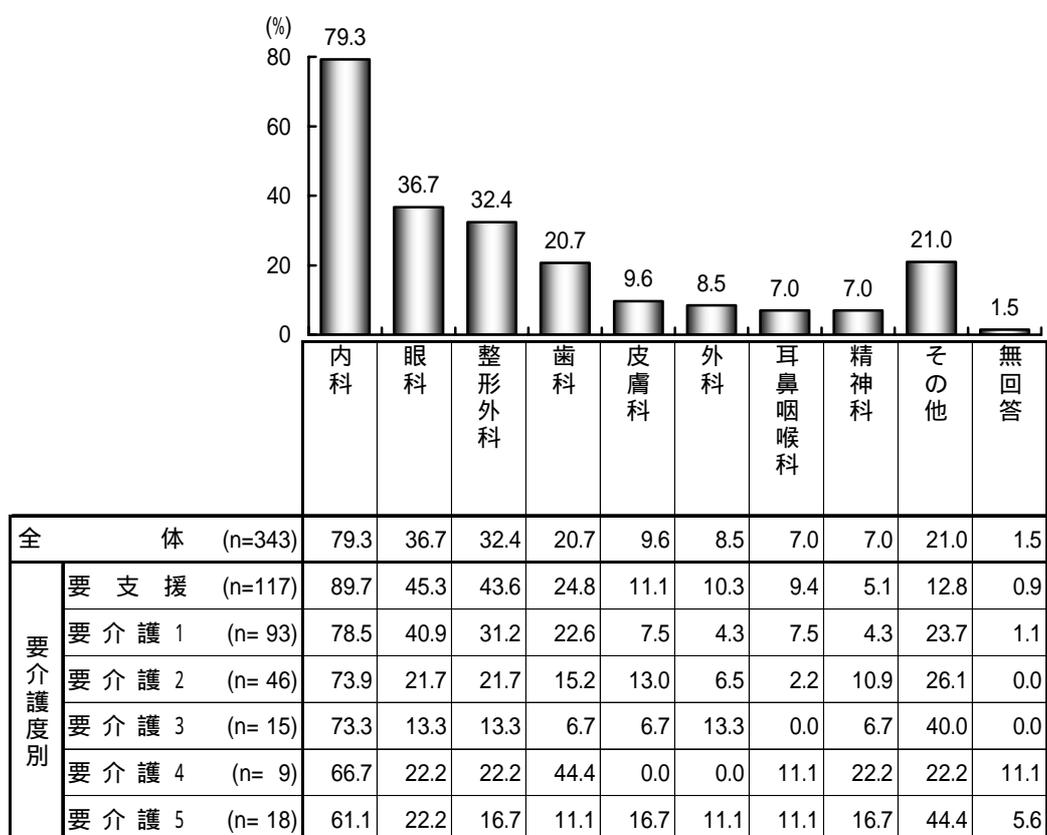
診療科（問6-1-イ）

診療科については、「内科(79.3%)」が最も多い。

要介護度別にみると、要介護2は「皮膚科」と「精神科」、要介護3は「外科」、要介護4は「歯科」と「精神科」、要介護5は「精神科」が全体を上回っている（図表4-2-9）。

図表4-2-9 診療科

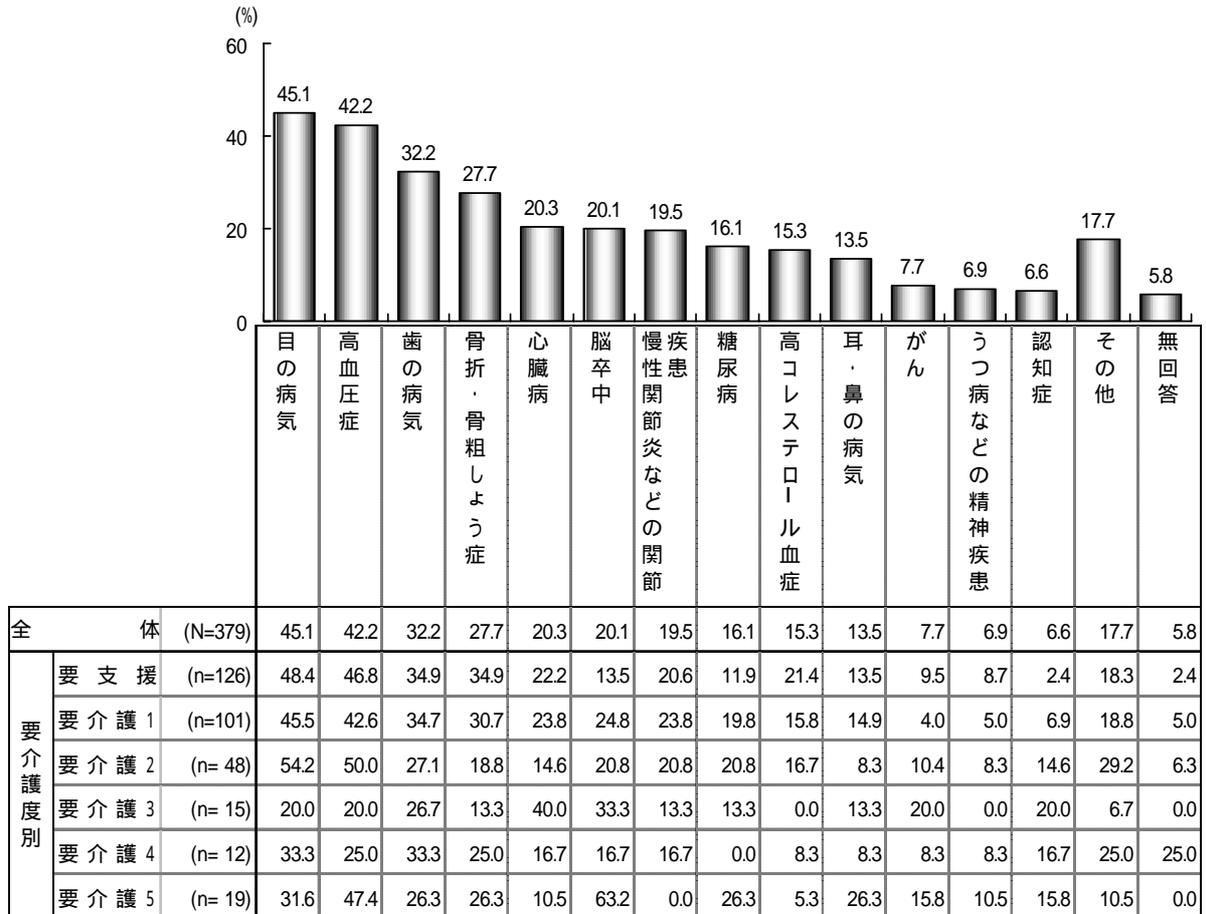
<受診状況があると回答した人>（全体、要介護度別/複数回答）



病歴（問7）

病歴については、「目の病気（45.1%）」、「高血圧症（42.2%）」が4割を超えている。
要介護度別にみると、要介護2以上で「認知症」が1割を超えている（図表4 - 2 - 10）。

図表4 - 2 - 10 病歴（全体、要介護度別／複数回答）

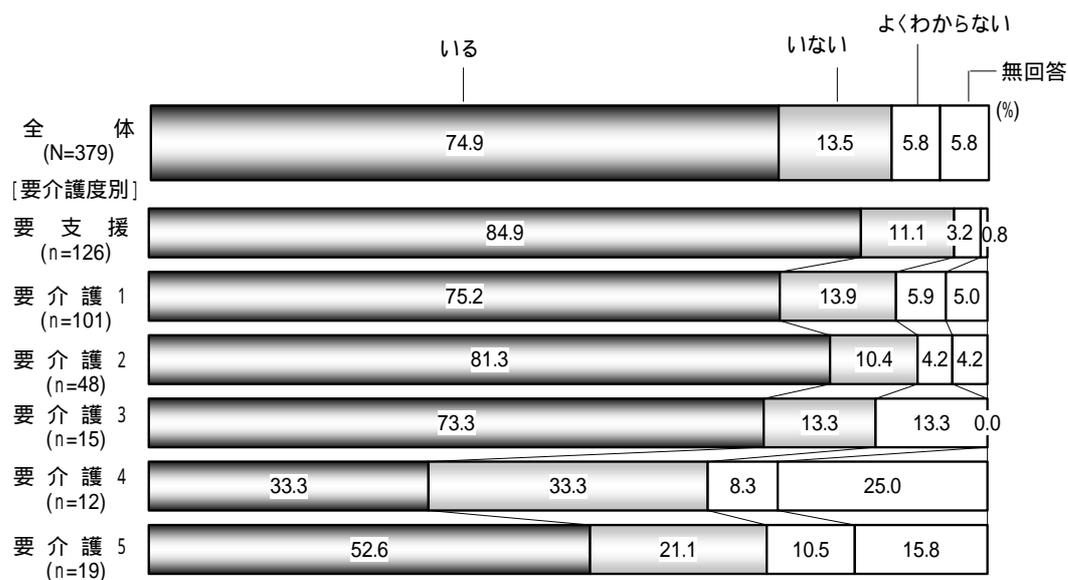


かかりつけ医の有無（問8）

かかりつけ医の有無については、「いる（74.9%）」、「いない（13.5%）」となっている。

要介護度別にみると、要介護4、5では「いる」割合が少なく、要介護4で33.3%である（図表4-2-11）。

図表4-2-11 かかりつけ医の有無（全体、要介護度別）

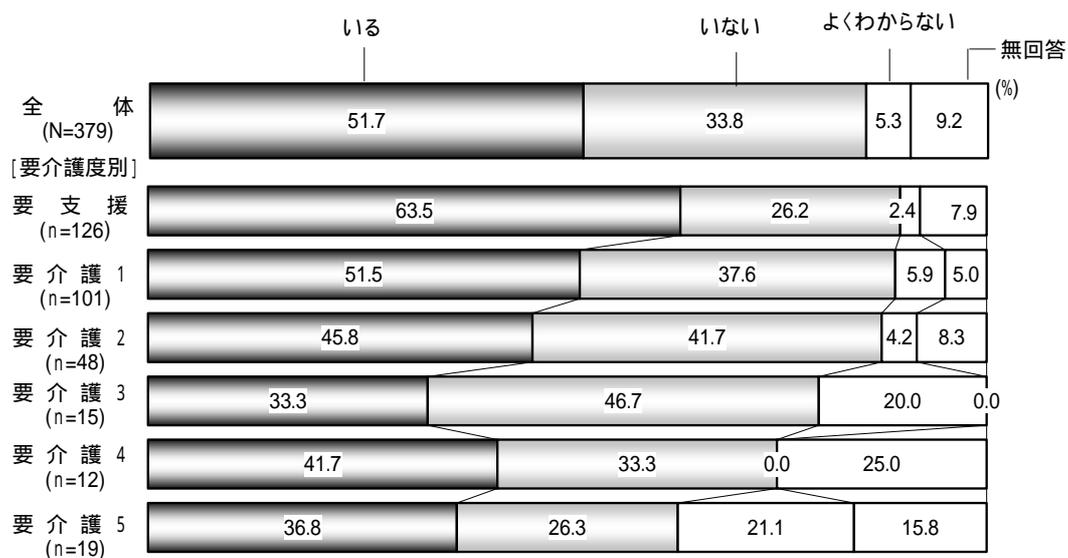


かかりつけ歯科医の有無（問9）

かかりつけ歯科医の有無については、「いる（51.7%）」、「いない（33.8%）」となっている。

要介護度別にみると、かかりつけ歯科医が「いる」割合は要支援で63.5%と多く、要介護3と要介護5では3割台と少ない（図表4-2-12）。

図表4-2-12 かかりつけ歯科医の有無（全体、要介護度別）

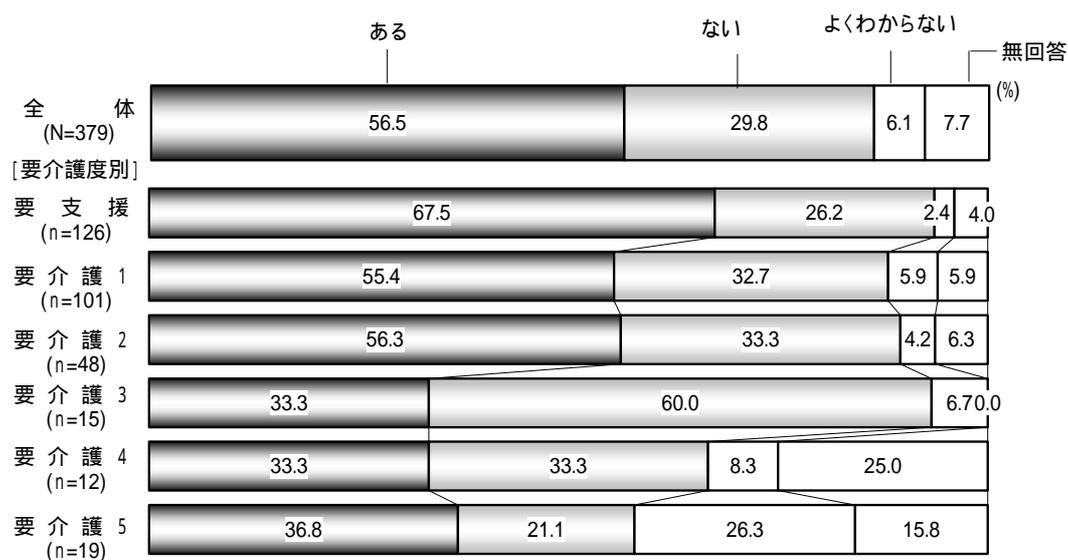


かかりつけ薬局の有無（問 10）

かかりつけ薬局の有無については、「ある（56.5%）」、「ない（29.8%）」となっている。

要介護度別にみると、かかりつけ薬局が「ある」割合は要支援で 67.5%と多く、要介護 3～5 では 3 割台と低くなっている（図表 4 - 2 - 13）。

図表 4 - 2 - 13 かかりつけ薬局の有無（全体、要介護度別）



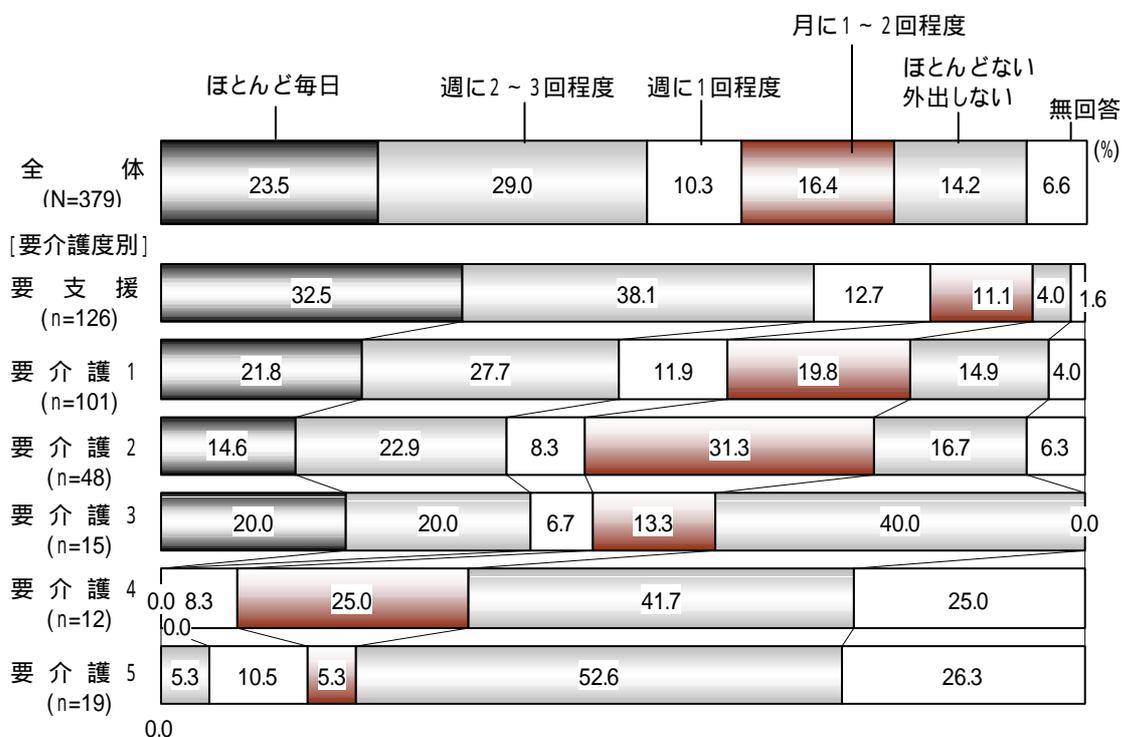
(3) 日常生活・生きがい活動

外出の状況(問11)

外出の状況については「週に2～3回程度(29.0%)」が最も多く、「ほとんど毎日(23.5%)」が続いている。1割台は「ほとんどない・外出しない(14.2%)」と回答している。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにつれ、外出頻度が低くなる傾向がある(図表4-3-1)。

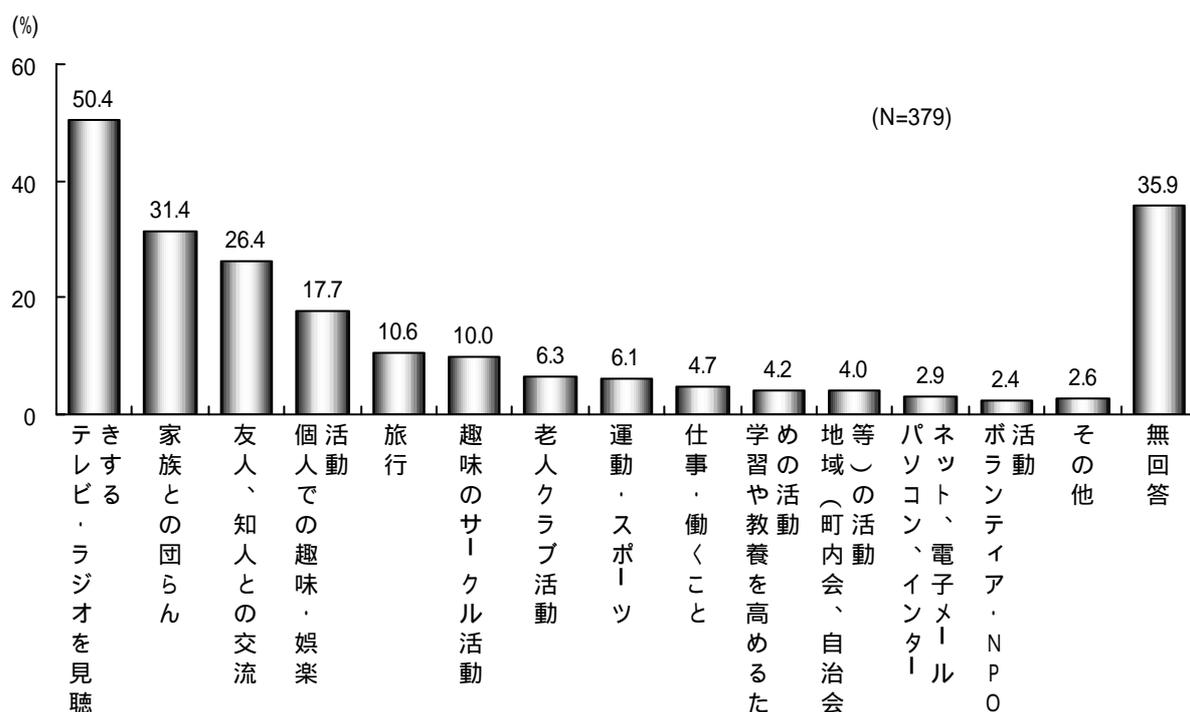
図表4-3-1 外出の状況(全体、要介護度別)



生きがい活動の現状と意向（問 12）

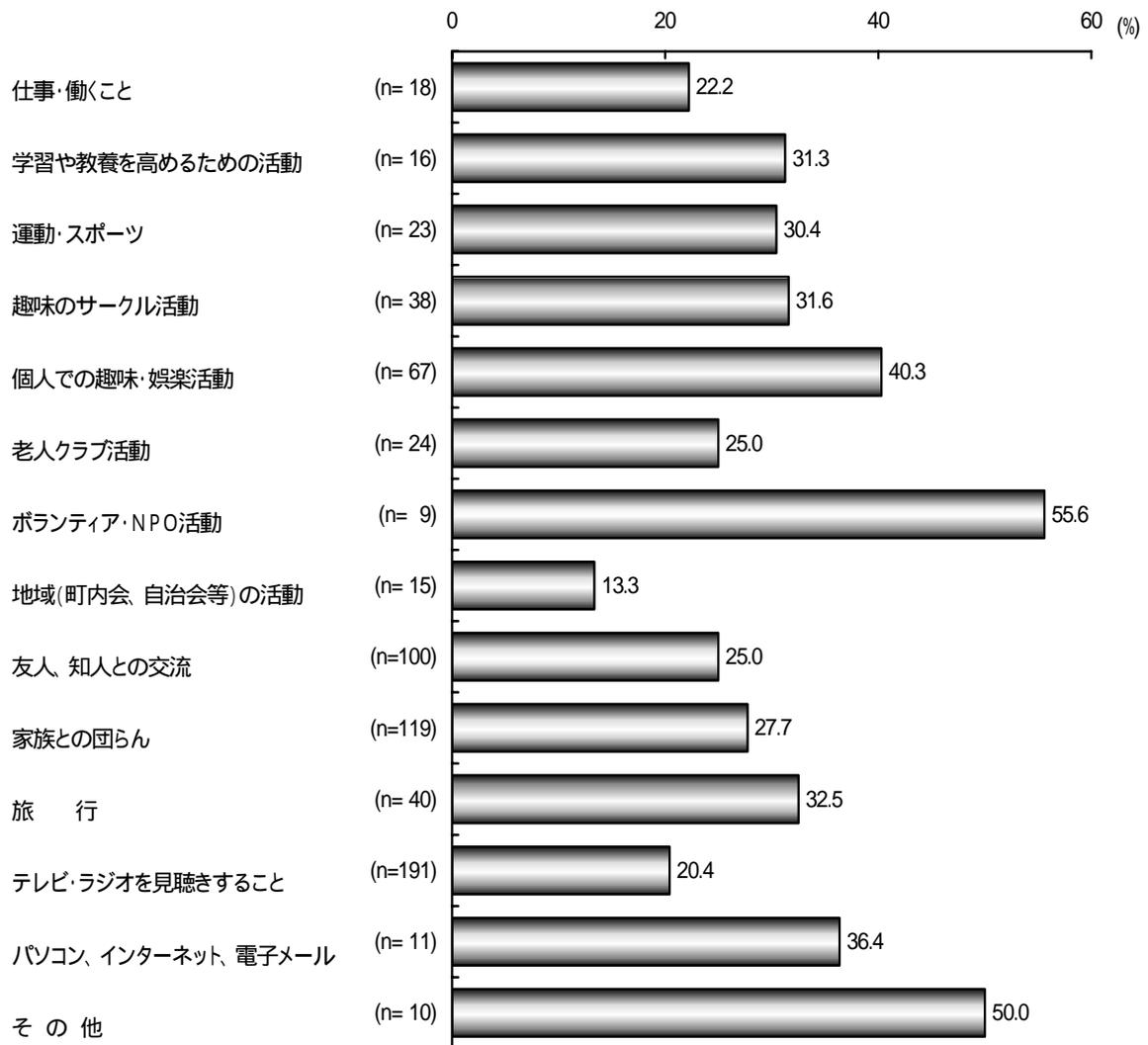
生きがい活動の現状については、「テレビ・ラジオを見聴きする（50.4%）」が最も多く、次いで「家族との団らん（31.4%）」、「友人、知人との交流（26.4%）」などが続く（図表4-3-2）。

図表4-3-2 現在行っていること（全体／複数回答）



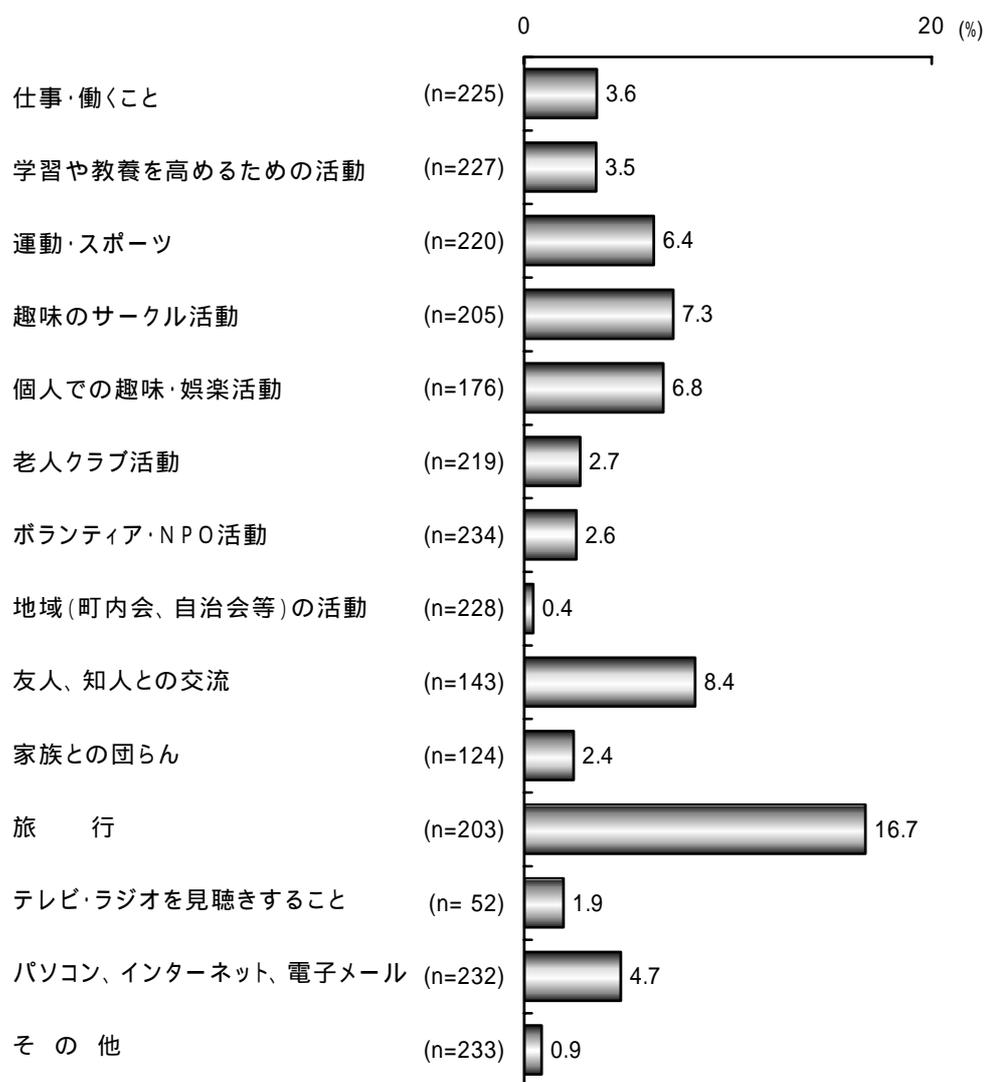
現在行っていることのうち、生きがいを感じることは「ボランティア・NPO(55.6%)」が最も多い。次いで「個人での趣味・娯楽活動(40.3%)」が続いている(図表4-3-3)。

図表4-3-3 現在生きがいを感じること
 <現在活動を行っている人>(全体/複数回答)



現在行っていないが、今後やってみたいことは、「旅行(16.7%)」が最も多く、次いで「友人、知人との交流(8.4%)」が続いている(図表4-3-4)。

図表4-3-4 現在は行っていないが、今後やってみたいこと
 <現在活動を行っていない人>(全体/複数回答)



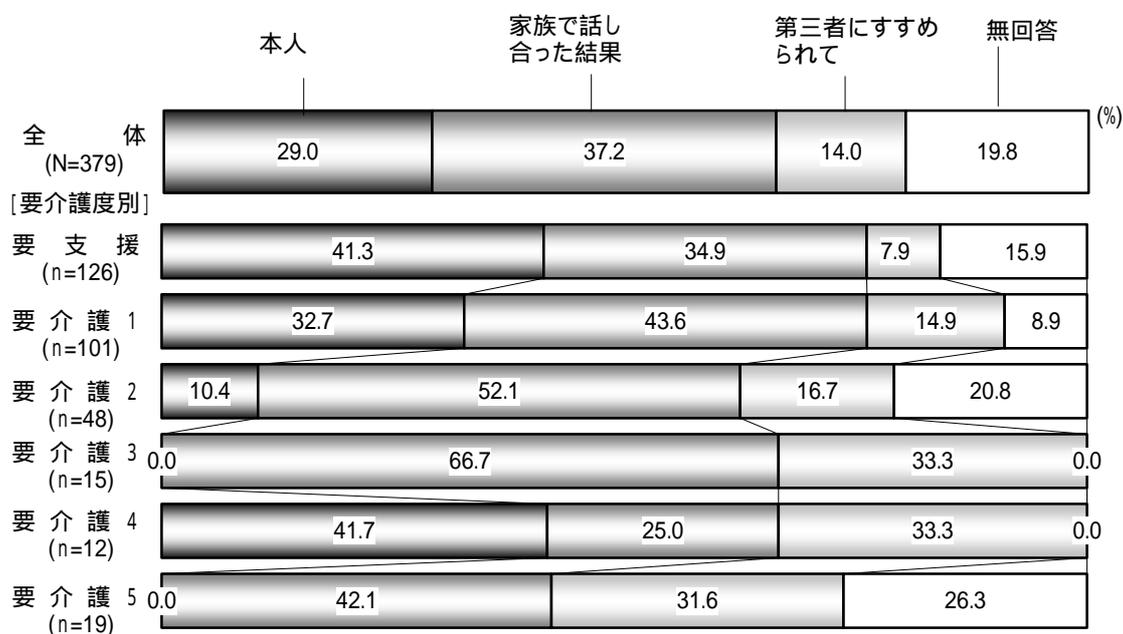
(4) 介護保険サービスを利用しない理由

要介護認定の申請者(問13)

要介護認定の申請者については、「家族で話し合った結果(37.2%)」が最も多い。「本人(29.0%)」も約3割である。

要介護度別にみると、要介護3以上になると「第三者にすすめられて」も3割を超え、多くなっている(図表4-4-1)。

図表4-4-1 要介護認定の申請者(全体、要介護度別)

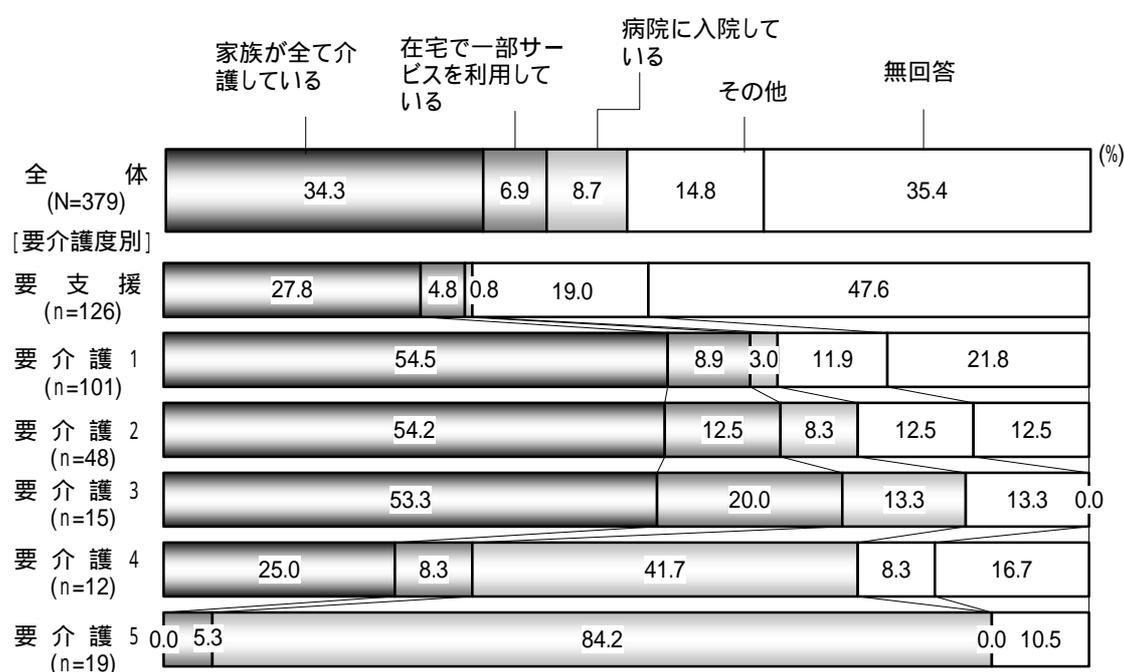


現在介護を受けている方法（問 14）

現在介護を受けている方法については、「家族が全て介護している（34.3%）」が最も多い。「在宅で一部サービスを利用している（6.9%）」は1割未満である。

要介護度別にみると、要介護1から要介護3では「家族が全て介護している」が半数以上となっている。要介護4では4割、要介護5では8割以上が「病院に入院している」と回答している（図表4-4-2）。

図表4-4-2 現在介護を受けている方法（全体、要介護度別）



在宅で一部利用している民間のサービス（問 14 - 1）

在宅で一部利用している民間のサービスについては、「デイサービス」、「訪問ヘルパー」などとなっている（図表 4 - 4 - 3）。

図表 4 - 4 - 3 在宅で一部利用している民間のサービス（全体）

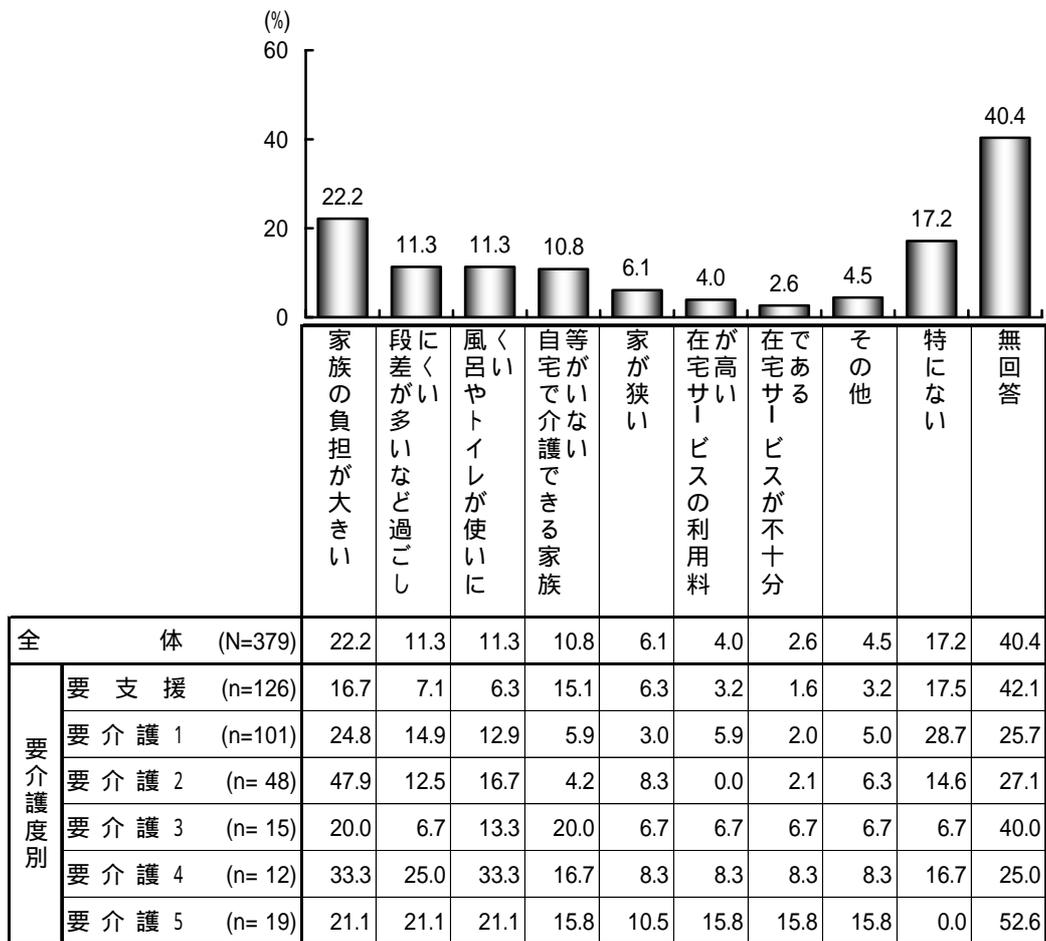
| サービス名 | 回答件数 |
|------------------|------|
| デイサービス | 6件 |
| 訪問ヘルパー | 5件 |
| リハビリ | 3件 |
| 介護タクシー | 2件 |
| 入浴サービス | 2件 |
| 福祉公社協力会員による掃除・買物 | 2件 |
| 車いす貸与・入浴用いす購入 | 1件 |
| 食事サービス | 1件 |
| ショートステイ | 1件 |
| その他 | 2件 |
| 計 | 25件 |

在宅生活の問題点（問 15）

在宅生活の問題点については、「家族の負担が大きい（22.2%）」が2割を超えている。

要介護度別にみると、要介護2は半数近くが「家族の負担が大きい（47.9%）」と回答し、全体を大きく上回っている（図表4-4-4）。

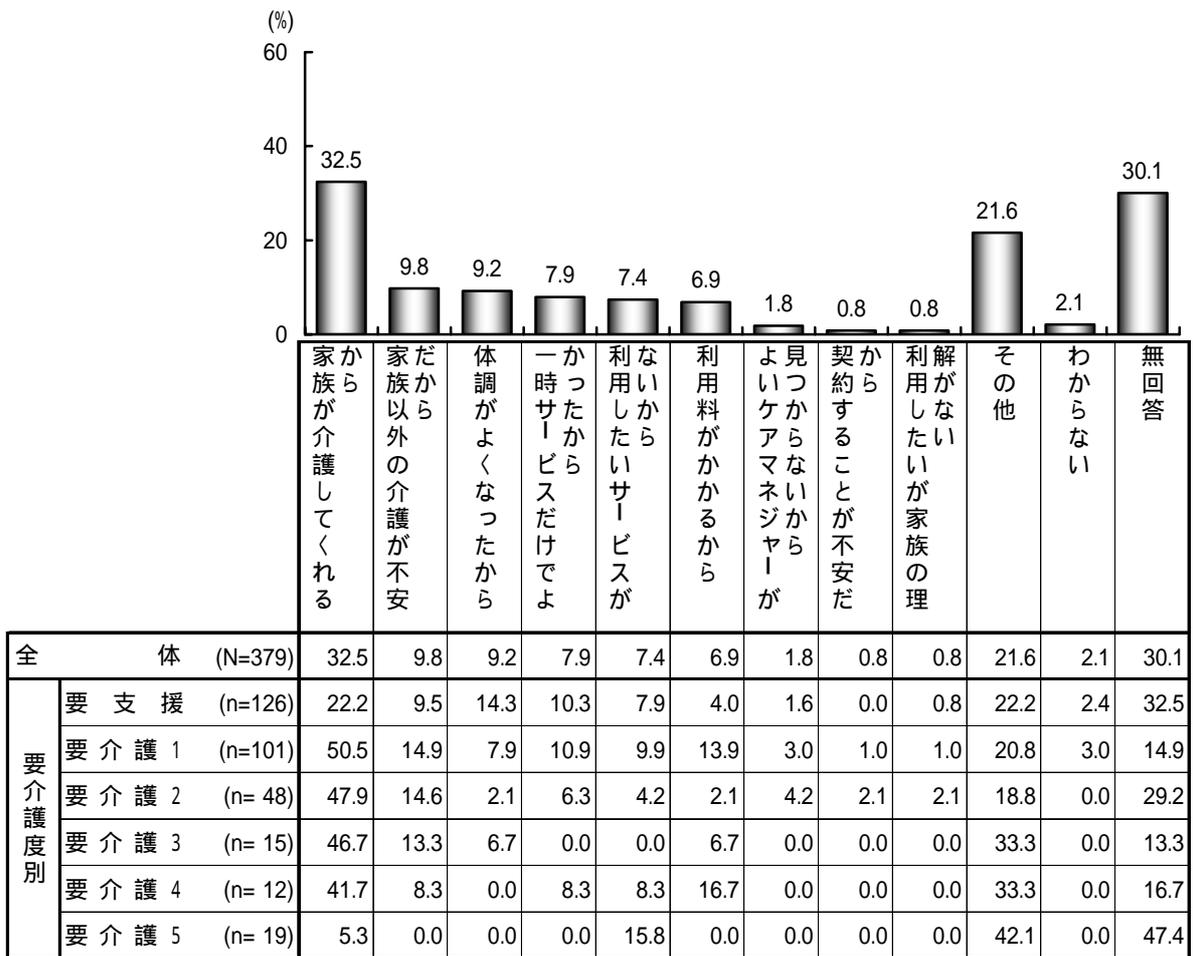
図表4-4-4 在宅生活の問題点（全体、要介護度別／複数回答）



サービスを利用しない理由（問 16）

介護保険サービスを利用しない理由は「家族が介護してくれるから（32.5%）」が最も多い。要介護度別にみると、要支援から要介護4までは「家族が介護してくれるから」が最も多いが、要介護5では「利用したいサービスがないから（15.8%）」が最も多い（図表4-4-5）。

図表4-4-5 サービスを利用しない理由（全体、要介護度別／複数回答）

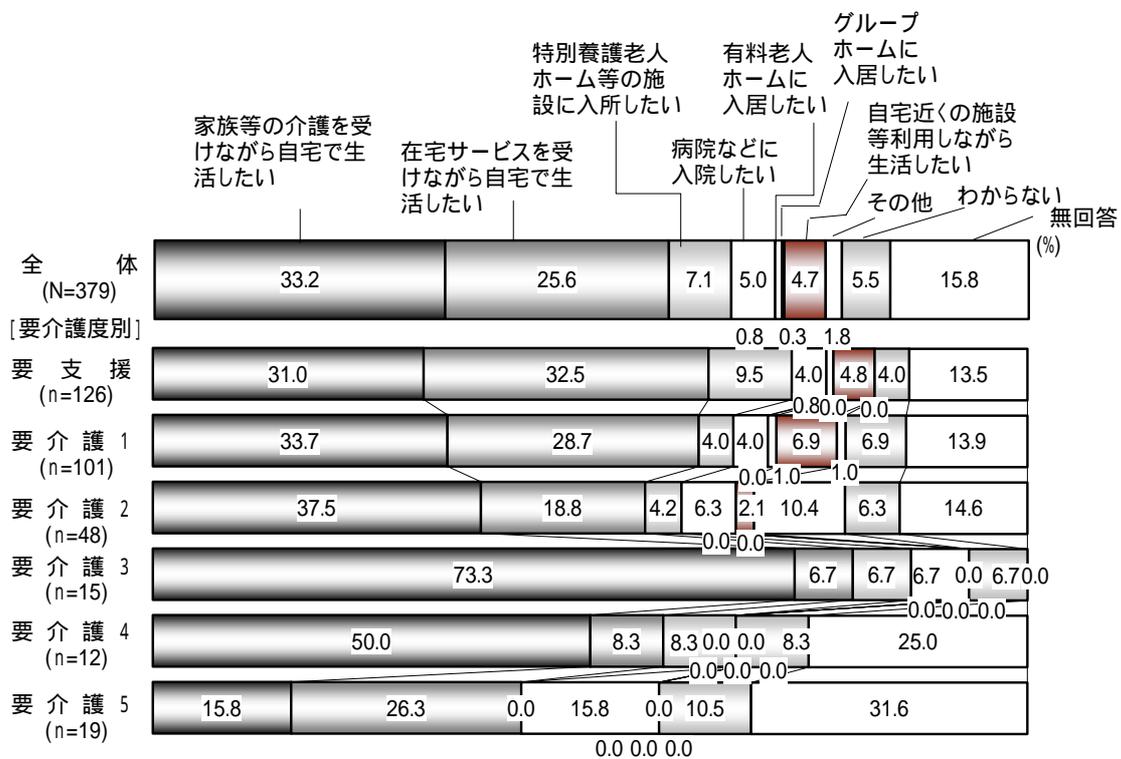


介護を受けたい場所（問 17）

介護を受けたい場所については、「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい(33.2%)」と「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい(25.6%)」をあわせると、《在宅希望》は6割近い。

要介護度別にみると、要支援から要介護3までは、要介護度が重くなるほど「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい」が増える傾向にある（図表4-4-6）。

図表4-4-6 介護を受けたい場所（全体、要介護度別）

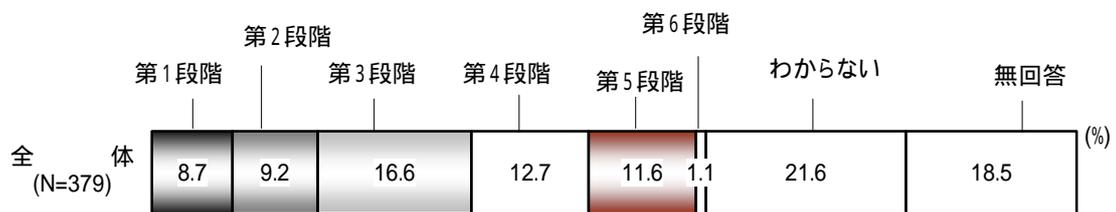


(5) 介護保険サービス

保険料段階（問18）

保険料段階については、多い順に「第3段階（16.6%）」、「第5段階（11.6%）」、「第4段階（12.7%）」などとなっている。2割が「わからない（21.6%）」と回答している（図表4-5-1）。

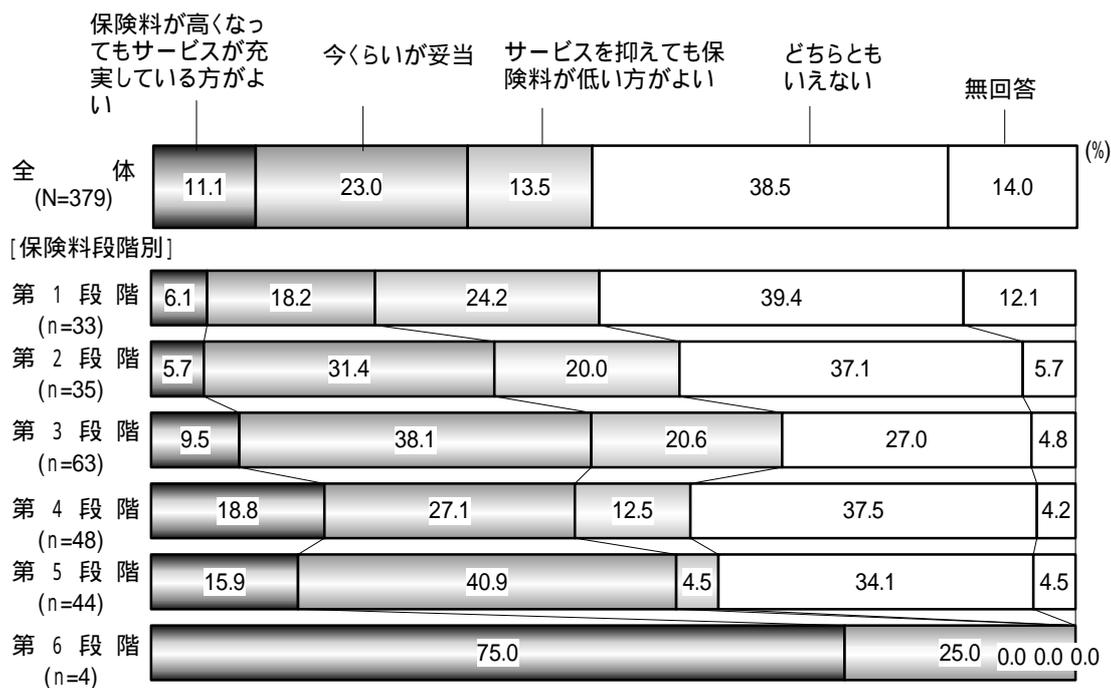
図表4-5-1 保険料段階（全体）



介護保険サービスと保険料についての考え方（問 19）

介護保険サービスと保険料についての考え方については、「どちらともいえない(38.5%)」が最も多く、次いで「今くらいが妥当(23.0%)」が続いている(図表4-5-2)。

図表4-5-2 介護保険サービスと保険料についての考え方(全体、保険料段階別)

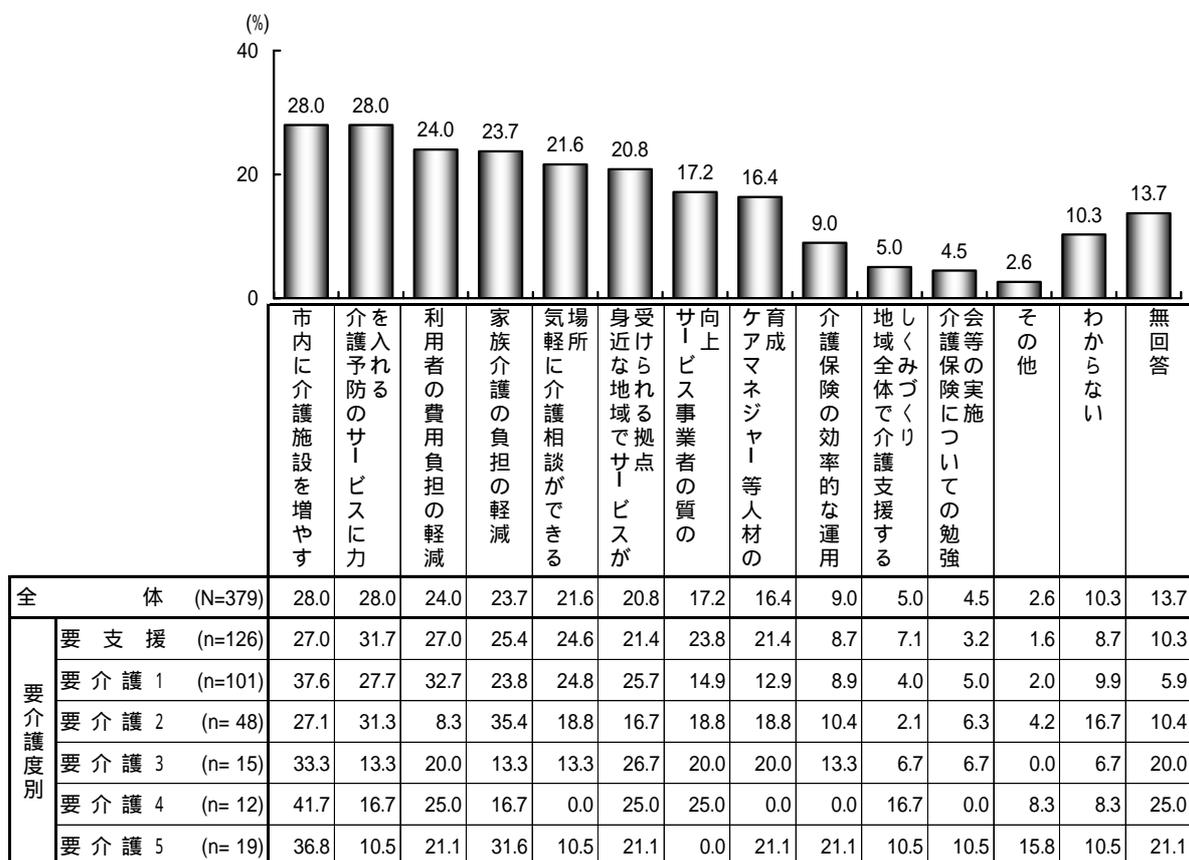


介護保険制度の改善策（問20）

介護保険制度の改善策については、「市内に介護施設を増やす（28.0%）」、「介護予防のサービスに力を入れる（28.0%）」が最も多い。以下、「利用者の費用負担の軽減（24.0%）」、「家族介護の負担の軽減（23.7%）」、「気軽に介護相談ができる場所（21.6%）」などが続いている。

要介護度別にみると、要支援は「介護予防のサービスに力を入れる（31.7%）」、要介護2は「家族介護の負担の軽減（35.4%）」、要介護1と要介護3～5は「市内に介護施設を増やす」が最も多い（図表4-5-3）。

図表4-5-3 介護保険制度の改善策（全体、要介護度別／複数回答）



(6) 保健福祉サービス

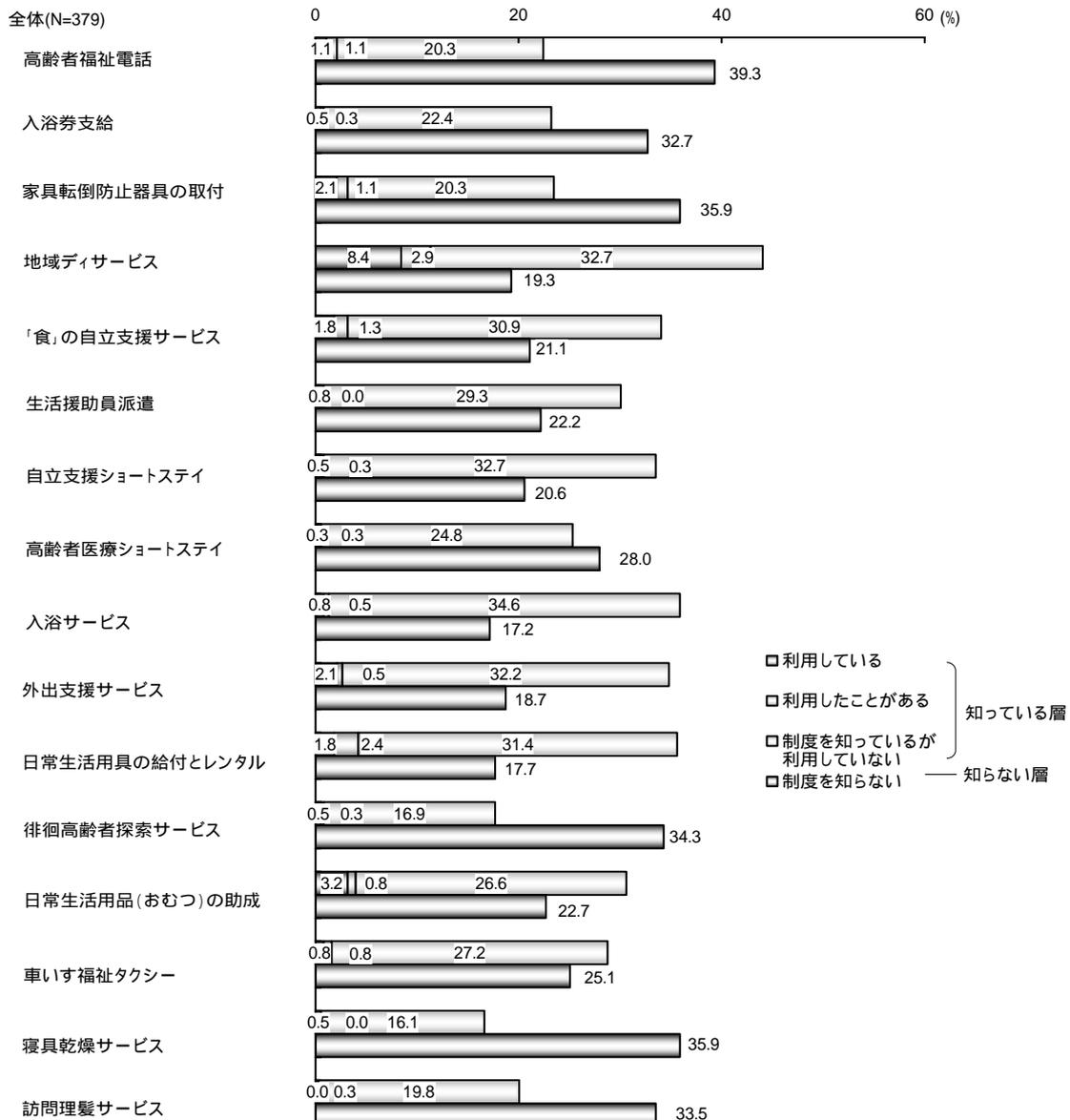
保健福祉サービスの利用状況・利用意向（問21）

保健福祉サービスの利用状況については、『日常生活用品（おむつ）の助成（3.2%）』、『家具転倒防止器具の取付（2.1%）』、『外出支援サービス（2.1%）』などが多いがいずれも5%未満と利用率は低い。

認知状況をみると、認知度が高いサービスは（「利用している」、「利用したことがある」、「制度を知っているが利用していない」の計）『地域デイサービス』、『入浴サービス』、『日常生活用具の給付とレンタル』、『外出支援サービス』、『食の自立支援サービス』などである。

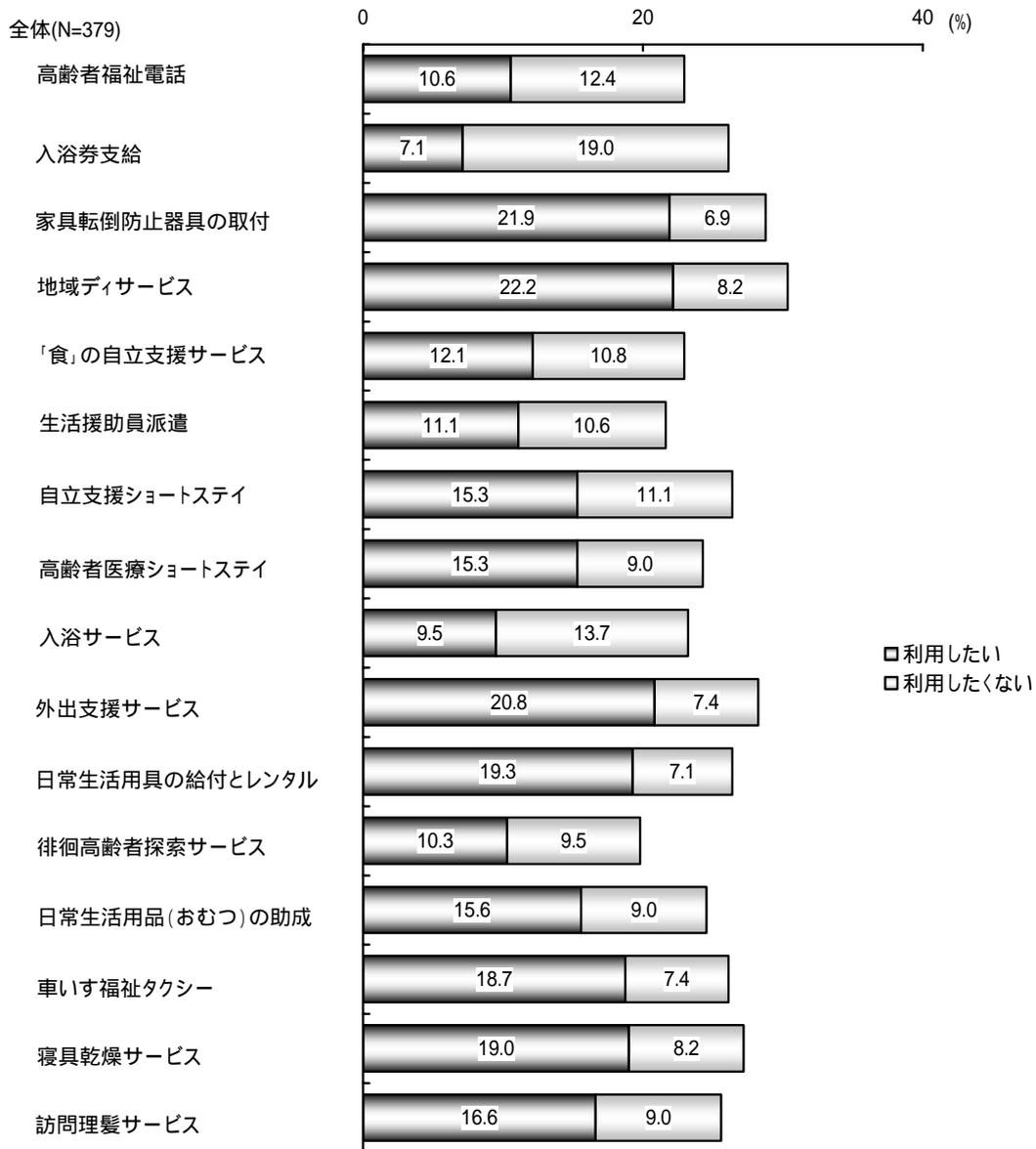
認知度が低いサービス（「制度を知らない」）として多くあげられているのは、『高齢者福祉電話（38.3%）』、『家具転倒防止器具の取付（35.8%）』、『寝具乾燥サービス（35.8%）』、『徘徊高齢者探索サービス（34.3%）』、『訪問理髪サービス（33.5%）』、『入浴券支給（32.7%）』などとなっている（図表4-6-1）。

図表4-6-1 保健福祉サービスの利用状況（全体）



利用意向については、「地域デイサービス」、「家具転倒防止器具の取付」、「外出支援サービス」の3項目で2割を超える（図表4 - 6 - 2）。

図表4 - 6 - 2 保健福祉サービスの利用意向（全体）

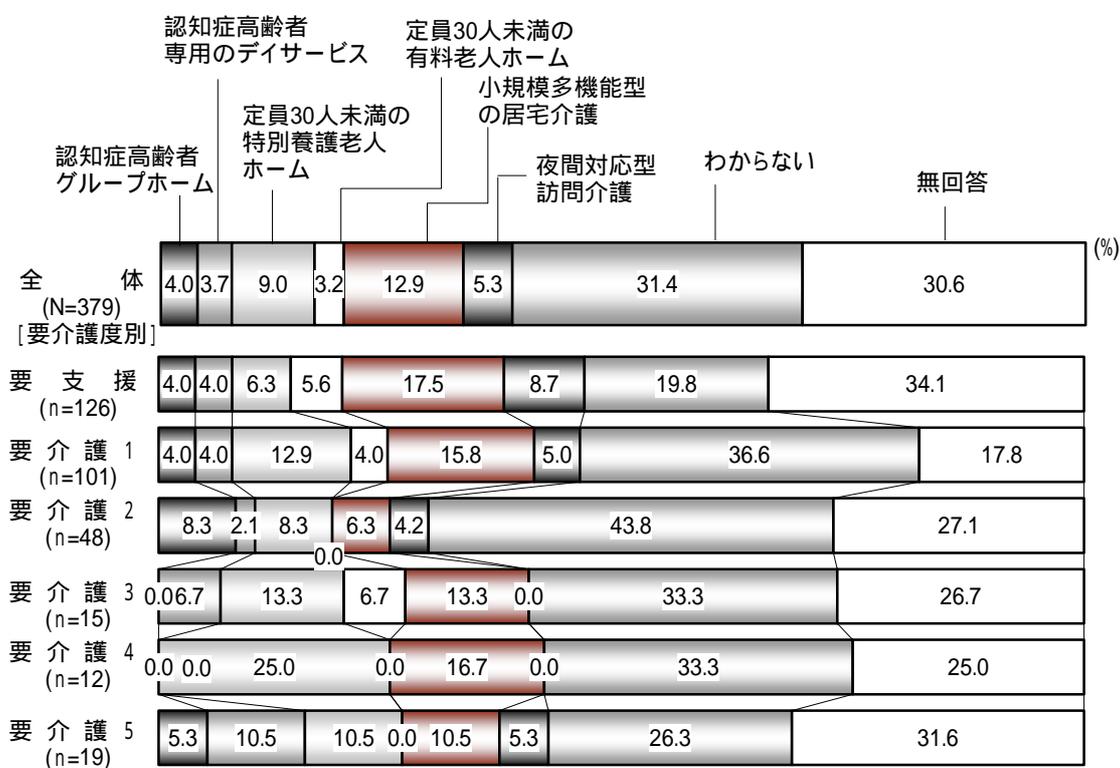


地域密着型サービスに対する考え方（問 22）

地域密着型サービスに対する考え方については、「わからない（31.4%）」を除くと、「小規模多機能型の居宅介護（12.9%）」、「定員 30 人未満の特別養護老人ホーム（9.0%）」が多くなっている。

要介護度別にみると、要介護 4 では「定員 30 人未満の特別養護老人ホーム」が 25.0%と全体と比べて多い（図表 4 - 6 - 3）。

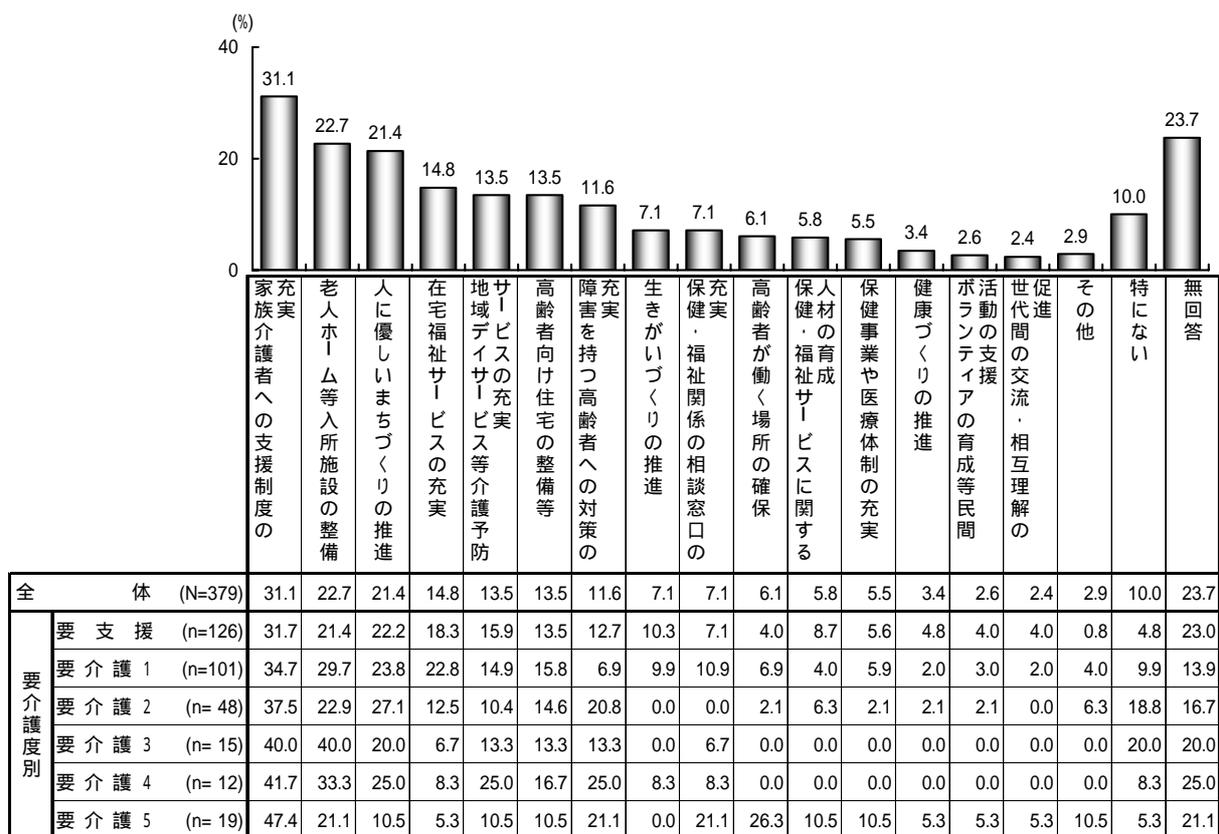
図表 4 - 6 - 3 地域密着型サービスに対する考え方（全体、要介護度別）



市が優先的に取組むべき保健福祉サービス（問 23）

市が優先的に取組むべき保健福祉サービスについては、「家族介護者への支援制度の充実（31.1%）」が3割を超え最も多い。次いで「老人ホーム等入所施設の整備（22.7%）」、「人に優しいまちづくりの推進（21.4%）」がそれぞれ2割台と続いている（図表4-6-4）。

図表4-6-4 市が優先的に取組むべき保健福祉サービス（全体、要介護度別／複数回答）

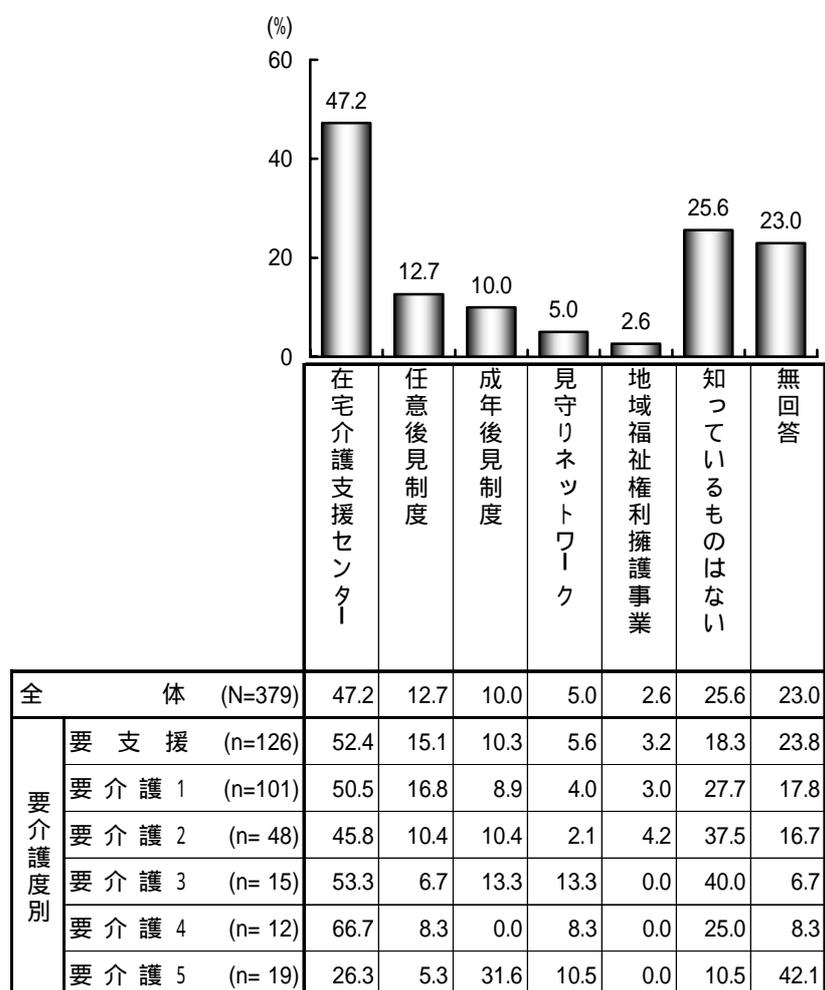


(7) 高齢者の権利擁護

権利擁護制度の周知状況 (問 24)

権利擁護制度の周知状況については、「在宅介護支援センター(47.2%)」が最も多い。要介護度別にみると、要介護5は「成年後見制度(31.6%)」の認知度が高い(図表4-7-1)。

図表4-7-1 権利擁護制度の周知状況(全体、要介護度別/複数回答)

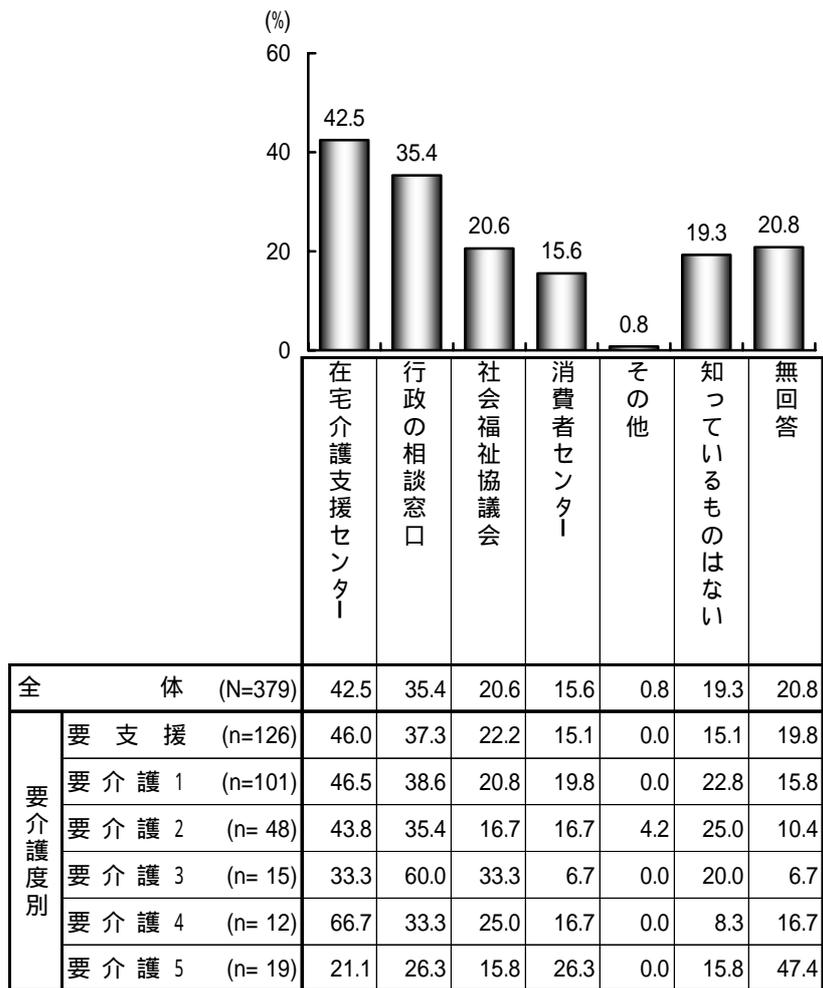


相談窓口の周知状況（問25）

相談窓口の周知状況については、「在宅介護支援センター（42.5%）」が最も多く、「行政の相談窓口（35.4%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護3では「行政の相談窓口」が60.0%、要介護4では「在宅介護支援センター」が66.7%と高くなっている（図表4-7-2）。

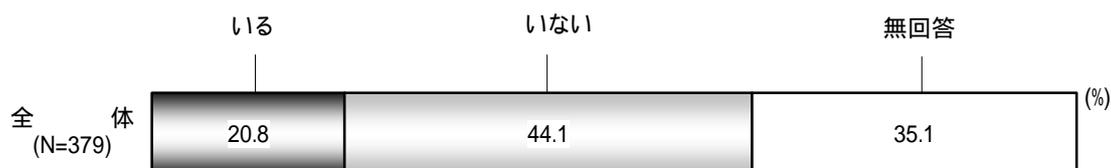
図表4-7-2 相談窓口の周知状況（全体、要介護度別／複数回答）



周囲で困っている人の有無（問26）

周囲で困っている人の有無については、「いない（44.1%）」が「いる（20.8%）」を上回っている（図表4-7-3）。

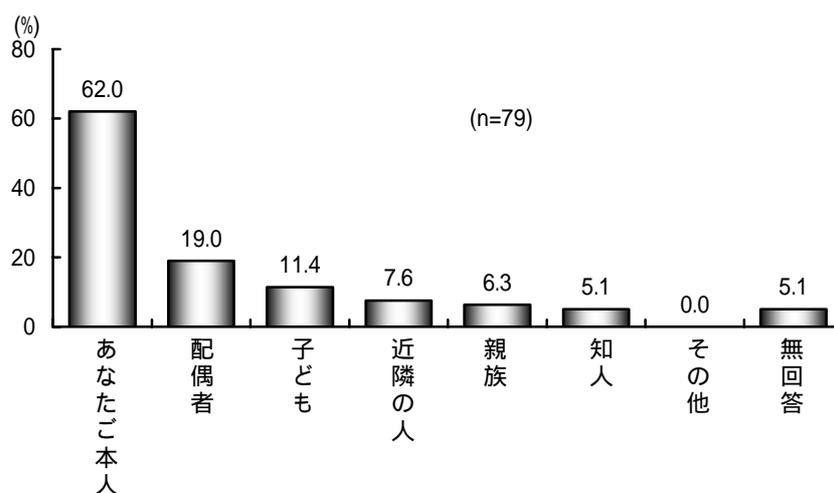
図表4-7-3 周囲で困っている人の有無（全体）



困っている人（問26-1）

困っている人については、6割が「本人(62.0%)」である（図表4-7-4）。

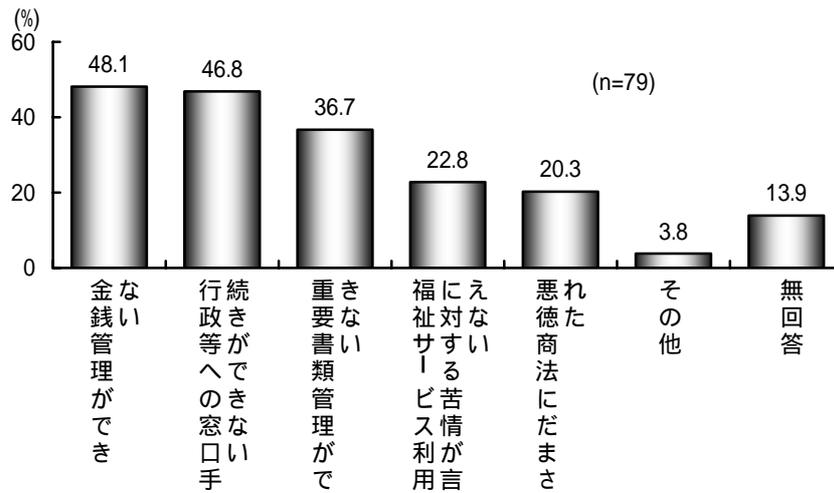
図表4-7-4 困っている人
 <困っている人がいると回答した人>（全体/複数回答）



事例（問26 - 2）

事例については、「金銭管理ができない(48.1%)」、「行政等への手続きができない(46.8%)」の2項目で4割台となっている(図表4 - 7 - 5)。

図表4 - 7 - 5 事例
<困っている人がいると回答した人> (全体/複数回答)



(8) 要望

自由回答には 55 件の記入があった。以下、主な意見を記載した。

<相談について：10 件>

- ・ この書類を頂いて思い出しました。もう少し身近に相談できたら幸福だと思いますが贅沢ですね。出来るだけ健康診査は自分で求めています。(女性、85～89 歳、要介護度不明)
- ・ 福祉や介護保険は、与えられるものではなく、自ら求めねばならず、その様なシステムのある事等を知らずにいる事も多々あり、知っても手続きの煩わしさから、つい利用せずにいる事も多々あります。「何か手助けできる事はありますか?」といった電話をするなどの制度があれば、相談し易くなると思います。(男性、40～64 歳、要介護 3)

<情報・資料の提供：7 件>

- ・ 勉強不足もありますが、制度の仕組みやサービスの内容が良く分かりません。分かり易いマニュアル(本など)があれば良いと思います。(女性、65～69 歳、要介護 1)

<施設に対する要望：7 件>

- ・ リハビリが出来るところがほしい。府中市にはそういう施設がない。(男性、80～84 歳、要介護 3)
- ・ 特別養護老人ホームに入所したくても、すぐには入所できないのが現状であり、将来が非常に不安である。ホームの増設を希望する。(男性、70～74 歳、要支援)

<要介護認定：6 件>

- ・ 日常生活にあまり困らずに利用されている方を見受けます。大切な税金を使用しているので、厳しい審査をしてほしいです。(女性、75～79 歳、要支援)

<保険料について：4 件>

- ・ ささやかな年金の中から夫婦 2 人分の介護保険料が引き落され、しかも制限が多く何の利用も出来ない現状は実に不愉快だ。(男性、65～69 歳、要介護 1)

<利用料について：3 件>

- ・ ヘルパーさんによくしてもらい、何も言うことはないが、使用料は高いと思う。(性別、年齢、要介護度不明)

<まだ元気・考えていない：3 件>

- ・ 健康でやれているので考えていない。(女性、70～74 歳、要介護度不明)

<アンケートについて：3件>

- ・ お年寄りには難解だと思う。もう少し考えてください。(女性、70～74歳、要介護3)

<感謝：5件>

- ・ 福祉公社の方が時々尋ねて来てくださいますし、施設の方々にも色々教えて頂いております。皆さん優しく接して下さって感謝しております。今後もよろしくお願い申し上げます。(女性、75～79歳、要介護1)

<その他：7件>

- ・ 昔は家庭内に於いて老人と子どもの接触が多く、人生経験豊かな老人から色々と学んでいた子ども達は、核家族化し両親も日中仕事で不在という家庭が多い。両世代が共に接触出来る様な機会と場所の提供は考えられないだろうか。(男性、65～69歳、要介護1)

(9) 家族介護への支援のあり方

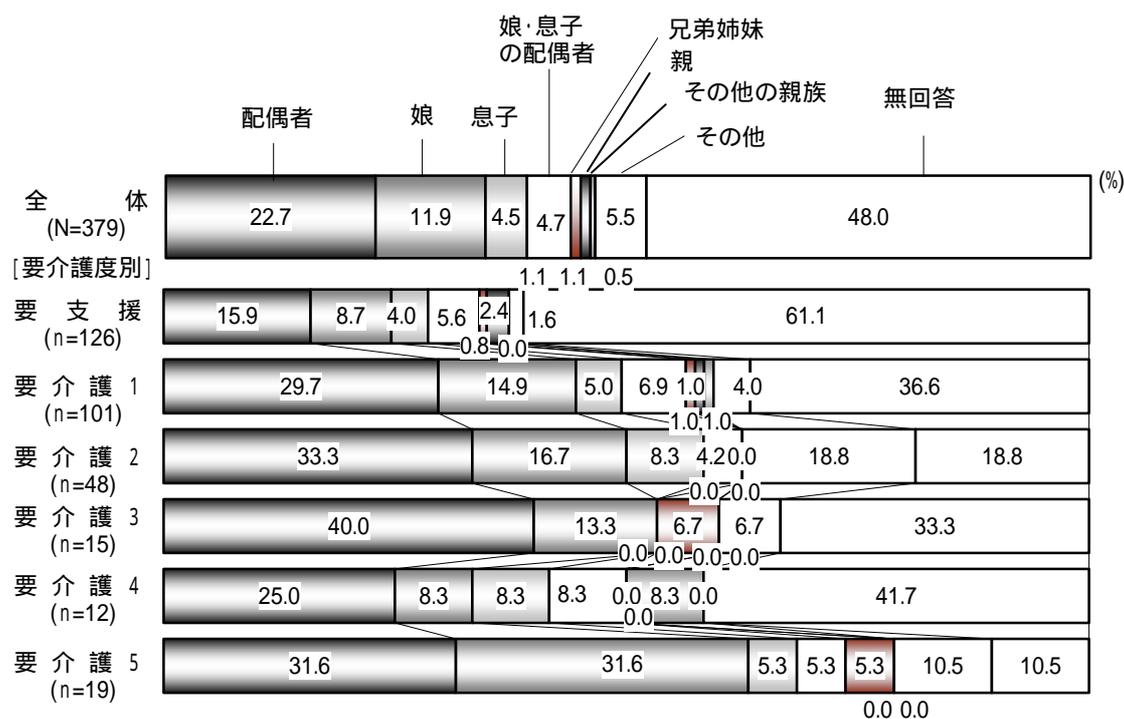
問 28 から問 35 まではあて名ご本人を主に介護している方にたずねた。

主な介護者（問 28）

主な介護者については、「配偶者（22.7%）」、「娘（11.9%）」などが上位となっている。

要介護度別にみると、どの要介護度でも主な介護者は「配偶者」である人が多く、要介護 5 では「娘」も多くなっている。また居宅サービス利用者と比べて、要介護 1～3 では「配偶者」という回答が多く、また入院等のためか、要介護 3 と要介護 4 では主な介護者を回答する割合が少なくなっている（図表 4 - 9 - 1）。

図表 4 - 9 - 1 主な介護者（全体、要介護度別）

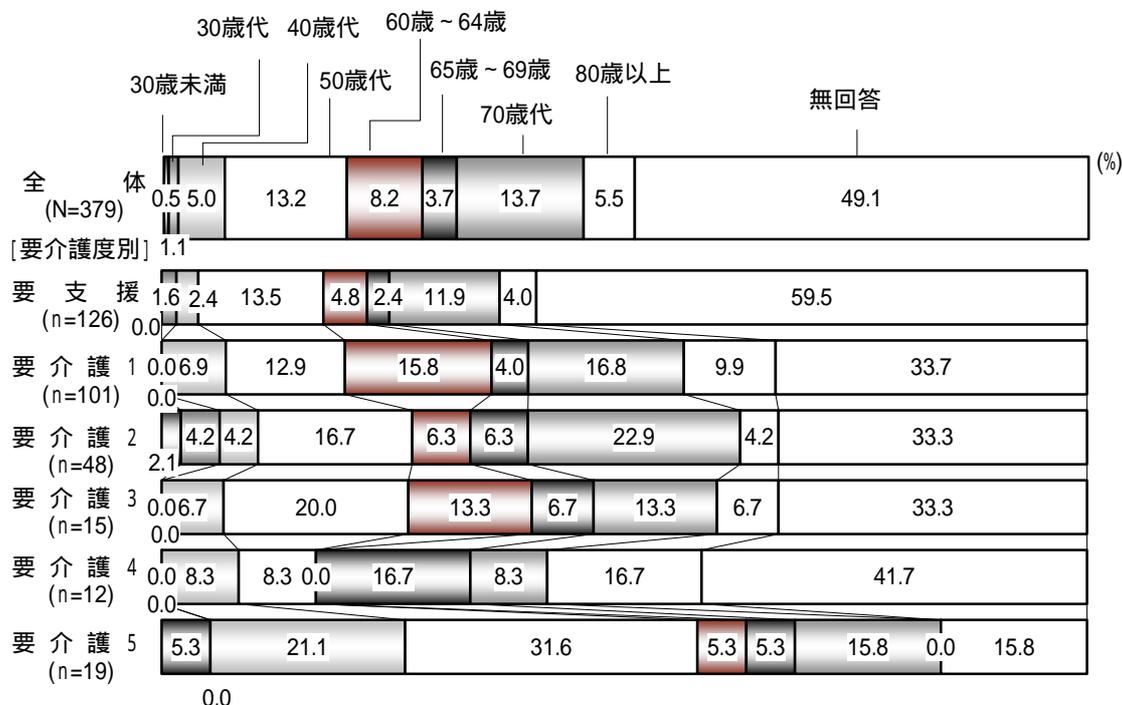


介護者の年齢（問 29）

介護者の年齢については、回答がなかった割合が半数近いものの、年代としては「70 歳代（13.7%）」、「50 歳代（13.2%）」などが多くなっている。

要介護度別にみると、要介護 1～3 では全体結果と同様、「50 歳代」と「70 歳代」の割合が比較的高い。その他の要介護度をみると、サンプル数が少ないが、要介護 4 では「80 歳以上」が 16.7%、要介護 5 では「30 歳代」が 21.1%であり、サービス未利用者の介護には多くの年代が関わっていることがわかる（図表 4 - 9 - 2）。

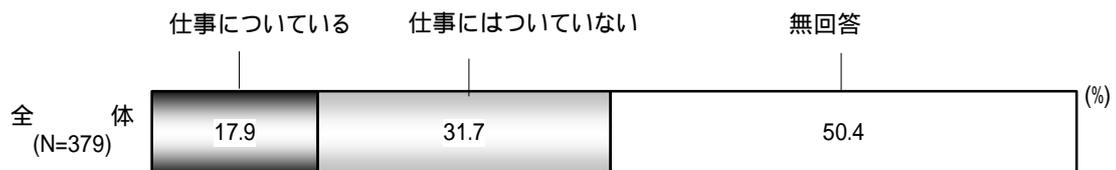
図表 4 - 9 - 2 介護者の年齢（全体、要介護度別）



介護者の就労状況（問 30）

介護者の就労状況については、「仕事についている(17.9%)」、「仕事にはついていない(31.7%)」で、就労している介護者は1割台である(図表4-9-3)。

図表4-9-3 介護者の就労状況（全体）

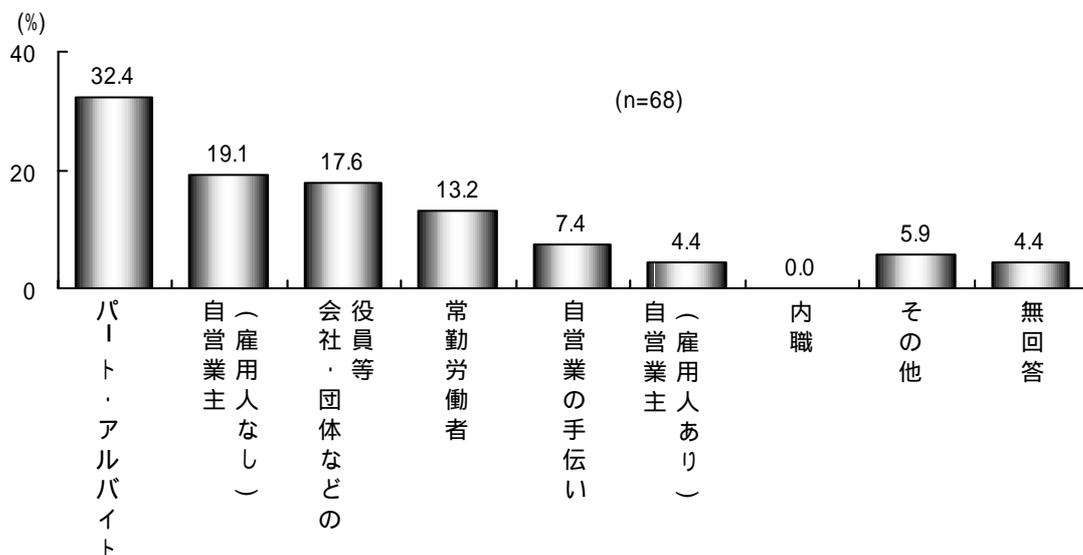


就労形態（問 30 - 1）

介護者の就労形態については、「パート・アルバイト(32.4%)」が3割以上と最も多い(図表4-9-4)。

図表4-9-4 就労形態

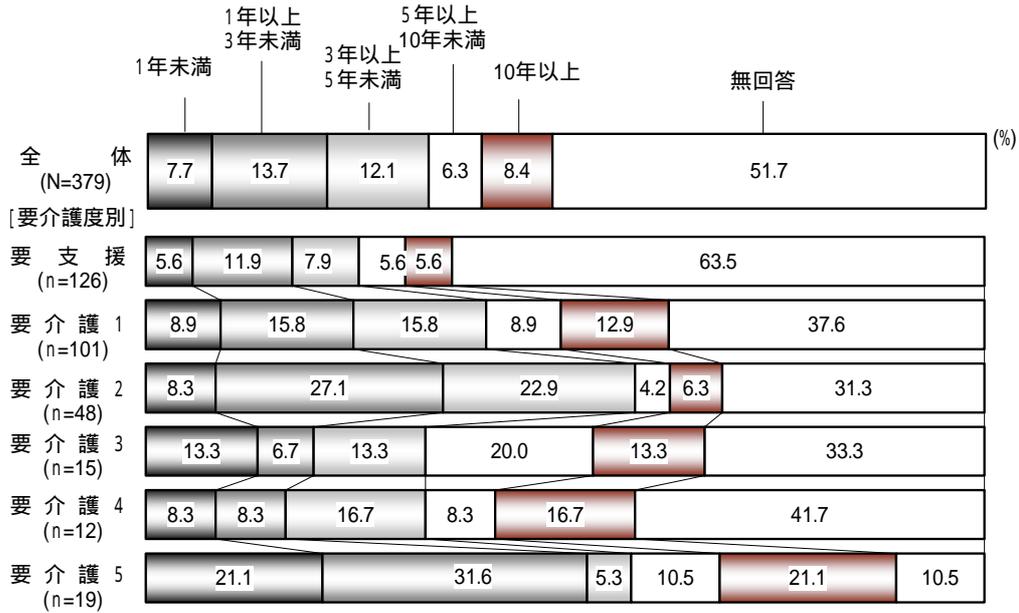
<仕事についていると回答した人>（全体/複数回答）



介護期間（問31）

介護期間については、多い順に「1年以上3年未満（13.7%）」、「3年以上5年未満（12.1%）」、「10年以上（8.4%）」などとなっている（図表4-9-5）。

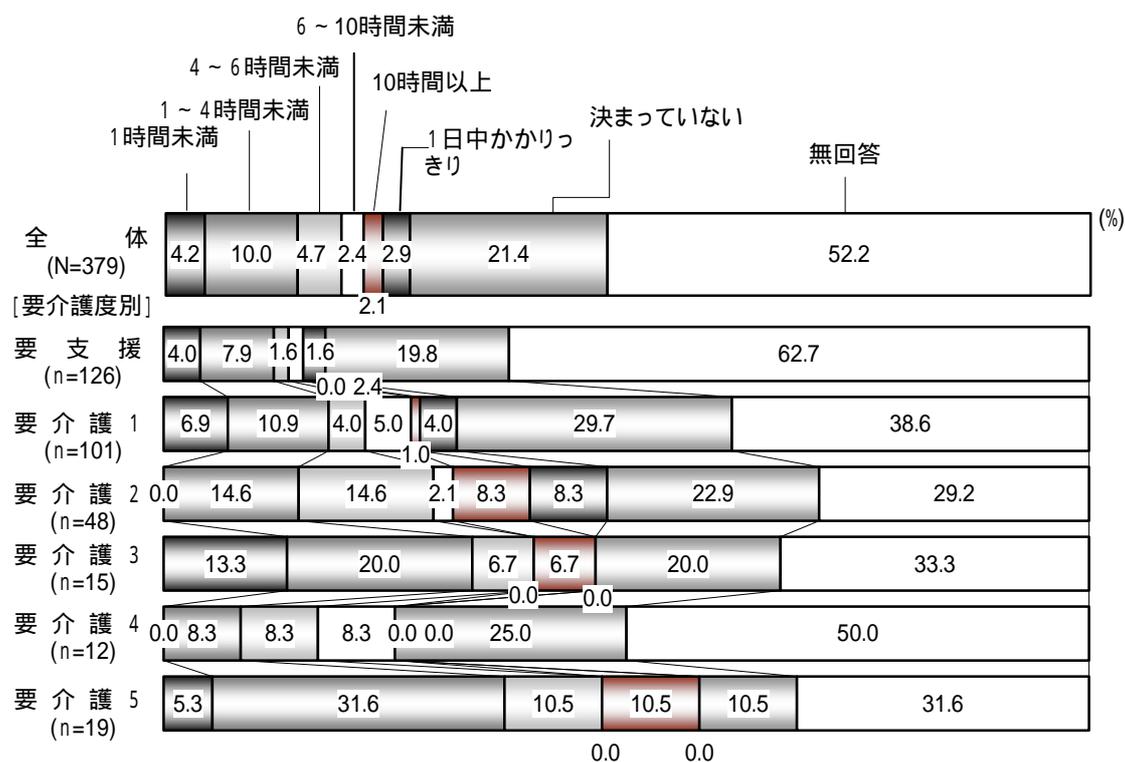
図表4-9-5 介護期間（全体、要介護度別）



介護時間（問 32）

介護時間については、「決まっていない(21.4%)」が最も多い（図表 4 - 9 - 6 ）。

図表 4 - 9 - 6 介護時間（全体、要介護度別）



認知症の症状（問33）

道や場所がわからなくなることが「ひんぱんにある（4.0%）」、「ときどきある（11.3%）」をあわせた何らかの傾向がある人は15.3%である。

要介護度別にみて、何らかの傾向がある人は要介護2で多く、「ひんぱんにある」は10.4%だが、何らかの傾向がある人は39.6%である（図表4-9-7）。

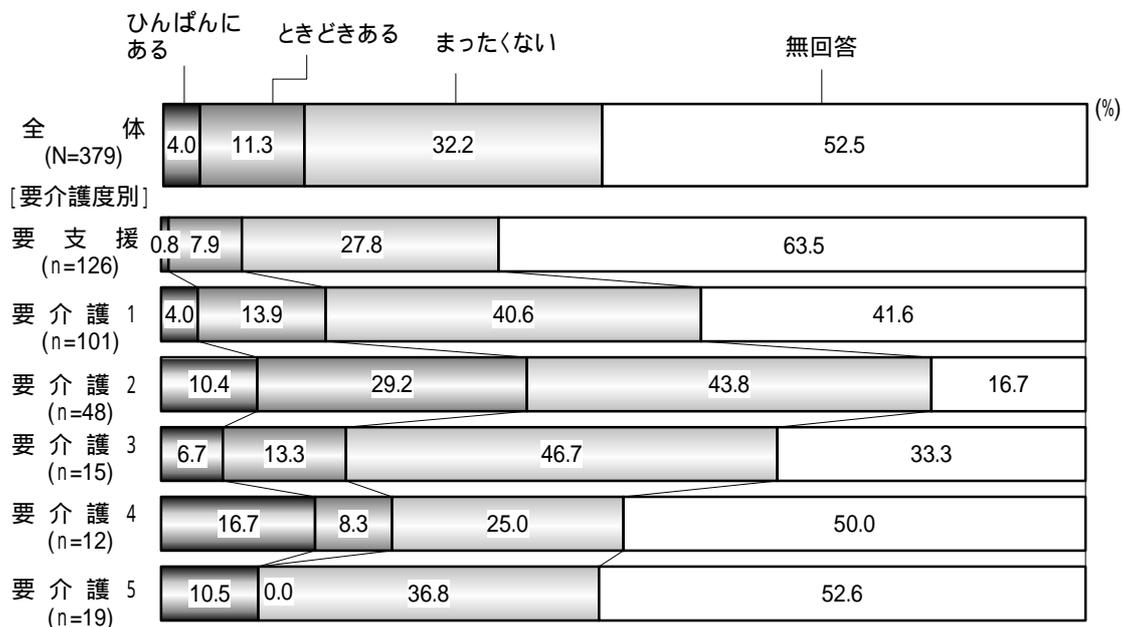
薬を飲む時間や量を間違えることが「ひんぱんにある（6.1%）」、「ときどきある（12.9%）」をあわせた何らかの傾向がある人は19.0%である。

要介護度別にみて、何らかの傾向がある人は要介護2で最も多く、33.4%にのぼっている（図表4-9-8）。

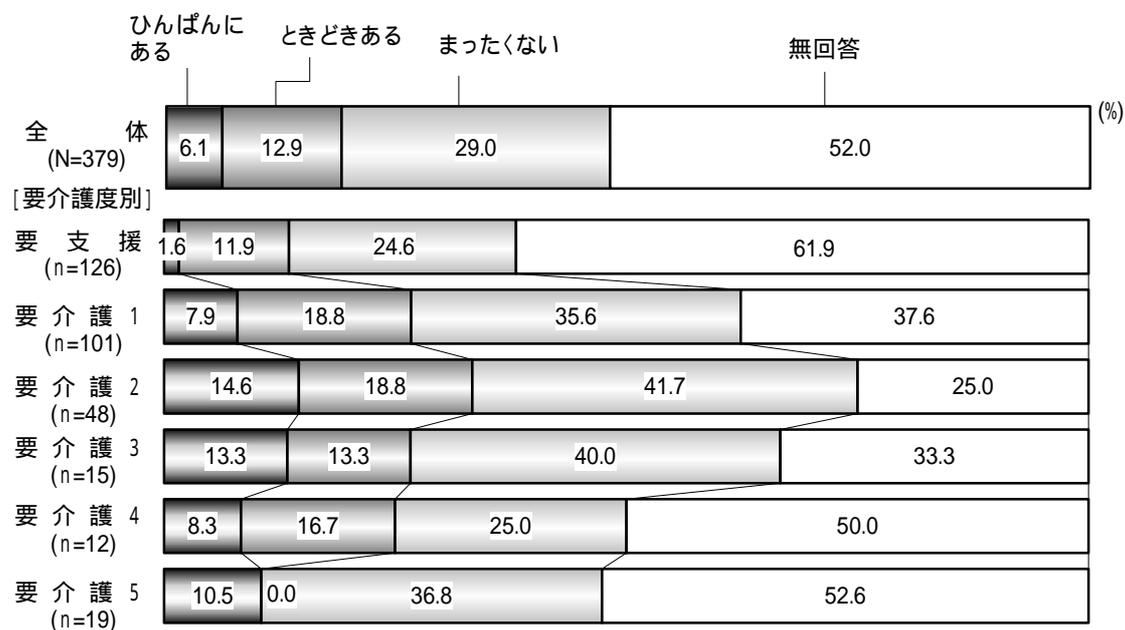
火の始末や火元の管理ができなくなることが「ひんぱんにある（4.7%）」、「ときどきある（9.8%）」をあわせた何らかの傾向がある人は14.5%である。

要介護度別にみて、何らかの傾向がある人は要介護2で最も多く、37.5%である（図表4-9-9）。

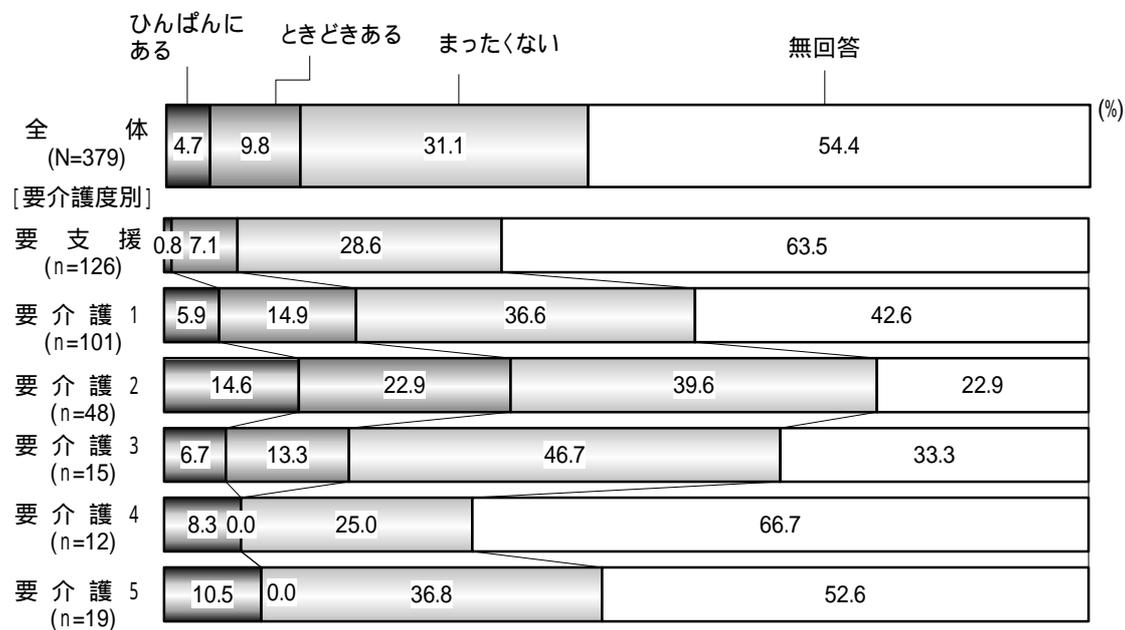
図表4-9-7 認知症の症状／道や場所がわからなくなること（全体、要介護度別）



図表 4 - 9 - 8 認知症の症状 / 薬を飲む時間や量がわからなくなること (全体、要介護度別)



図表 4 - 9 - 9 認知症の症状 / 火の始末や火元の管理ができなくなること (全体、要介護度別)

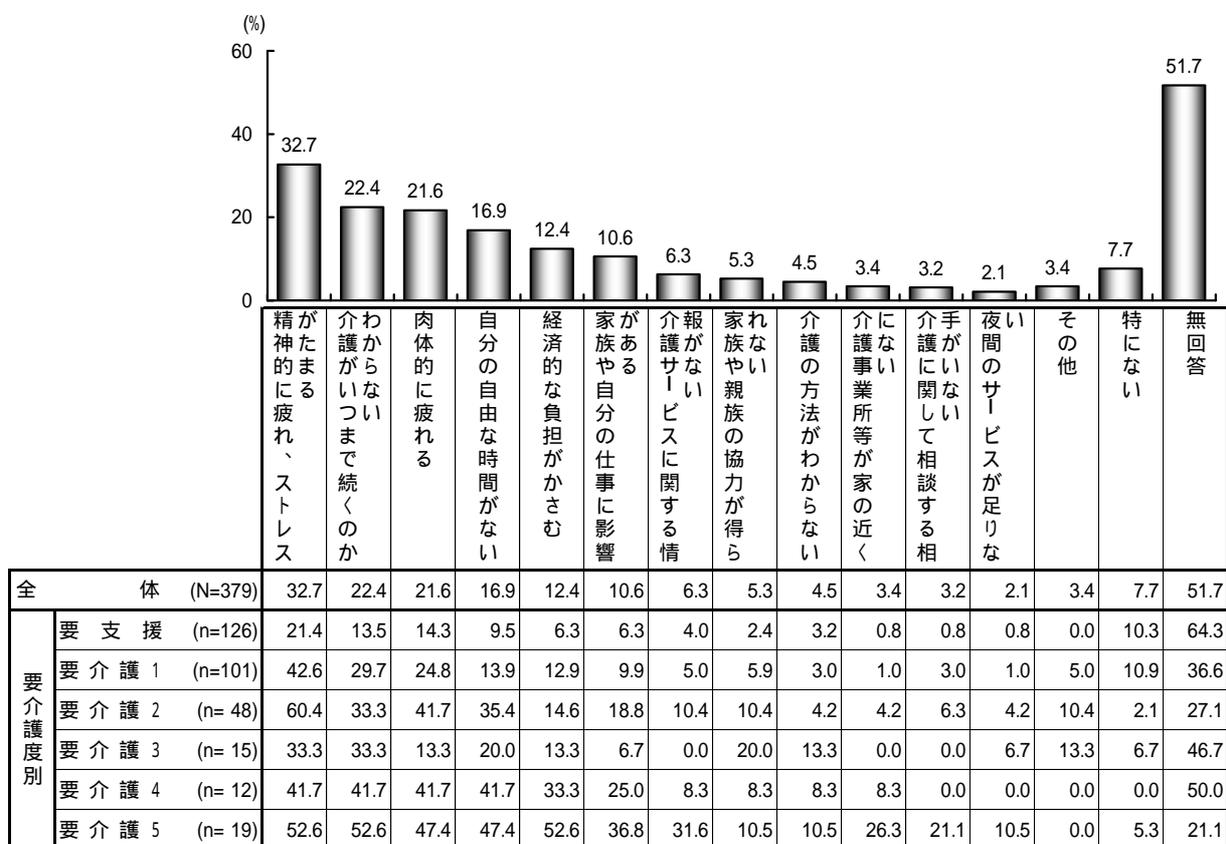


介護の問題点（問 34）

介護の問題点については、「精神的に疲れ、ストレスがたまる（32.7%）」が最も多く、次いで「介護がいつまで続くのかわからない（22.4%）」、「肉体的に疲れる（21.6%）」が2割台で続いている。「経済的な負担がかさむ（12.4%）」という回答も多い。

要介護度別にみても、重度の方から多くの問題点が挙げられているが、要介護2で「精神的に疲れ、ストレスがたまる」という回答が最も多い（図表4-9-10）。

図表4-9-10 介護の問題点（全体、要介護度別／複数回答）



今後の生活の場所（問 35）

今後の生活の場所については、「家族等の介護を受けながら自宅で生活する（23.7%）」、「在宅サービスを受けながら自宅で生活する（15.3%）」をあわせると、4割弱が自宅での生活がよいと考えていることがうかがえる。

要介護度別にみると、要介護3では「自宅近くの施設等利用しながら生活する（13.3%）」や「有料老人ホームに入居する（6.7%）」が全体を上回っている。また、要介護5では「病院などに入居する（42.1%）」が最も多くなっている（図表4-9-11）。

図表4-9-11 今後の生活の場所（全体、要介護度別）

